

設置の趣旨等を記載した書類

目次

ア	設置の趣旨及び必要性.....	1
イ	学部、学科の特色.....	10
ウ	学部、学科の名称及び学位の名称.....	16
エ	教育課程の編成の考え方及び特色.....	19
オ	教員組織の編成の考え方及び特色.....	28
カ	教育方法、履修指導方法及び卒業要件.....	32
キ	施設、設備等の整備計画.....	38
ク	入学者選抜の概要.....	40
ケ	実習の具体的計画.....	45
コ	管理運営.....	51
サ	自己点検・評価.....	52
シ	情報の公表.....	54
ス	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等.....	59
セ	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制.....	60

ア 設置の趣旨及び必要性

1 本学の基本理念、特色等

(1) 本学の沿革

本学は、「流通経済一般に関する研究と教育を振興して、わが国経済の飛躍的發展を図るとともに、深く人文科学を攻究し、教養ゆたかな、視野の広い指導的人材を育成して、国民経済の健全化と福祉の増進を図る」ことを目的として、昭和40年に経済学部経済学科の単科大学として開学し、平成27年度には50周年を迎えた。この間、地域の教育及び文化的基盤として地元から大きな信頼を受けるとともに、流通とりわけ物流の最先端研究機関として全国各地及び海外から注目を受けている。現在では、5学部（経済学、社会学、流通情報学、法学、スポーツ健康科学）、大学院5研究科（経済学、社会学、物流情報学、法学、スポーツ健康科学）を有する社会科学系の中規模総合大学に発展している。

(2) 本学の教育方針・特色

上述した本学設置時における基本理念を基盤として、本学学則では「広く知識を授け人格の陶冶に努めるとともに、広く社会科学に関する学問を研究教授し、もって産業の興隆と文化の発展に寄与すべき優秀な人材を養成する」としている（学則・第1章・第1条）。そして、世界最大の物流企業である日本通運(株)をはじめ、産業界の広範な支援の基に創設されたという経緯もあり、開学以来、産学協同、産学連携を積極的に進める大学として、上記目的を達成するための教育方針として「実学主義」、すなわち「空理空論を語らず、日本の心と伝統の文化に裏打ちされた教養を身につけた世界に通用する実業人の育成」を教育目標の中心に据えている。さらに、これを側面的に支える「教養教育の重視」「少人数教育」を教育上の特色としている。特に、教員と学生の間を生ずる学問を媒介とした人格の触れ合いを重視し、授業を通じてのみではない、広い教養を身につけられるよう4年間を通じて少人数で編成されたゼミナールに所属することを必須としている（なお、ゼミナールは1年次及び2年次の終了時に再編され、できるだけ多くの教員と触れ合えるよう配慮されている）。

このような教育の方針と特色をもって人材を育成してきた本学は、産業界の各方面から一定の評価を得てきている。同時に、地元からの人材需要に応える大学として、地元自治体に多くの卒業生が就職して住民サービスの業務に励み、また地域のリーダーとして活躍している状況が高く評価されている。本学では、今後とも開学以来築いてきた地域での信頼と新しい時代のニーズに適った研究、教育活動が続けるとともに、一層の充実・発展を図ることを期している。

(3) 本学の現状

大学名： 学校法人日通学園 流通経済大学

所在地： 茨城県龍ヶ崎市120

学部等の構成： 学部・学科

経済学部	経済学科
	経営学科
社会学部	社会学科
	国際観光学科
流通情報学部	流通情報学科
法学部	ビジネス法学科
	自治行政学科
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科
大学院研究科・専攻	
経済学研究科	経済学専攻（修士課程）
	経済学専攻（博士後期課程）
社会学研究科	社会学専攻（修士課程）
	社会学専攻（博士後期課程）
物流情報学研究科	物流情報学専攻（修士課程）
	物流情報学専攻（博士後期課程）
法学研究科	リーガルガバナンス専攻（修士課程）
スポーツ健康科学研究科	スポーツ科学専攻（修士課程）

学生数、教員数、職員数：

【大学学部】（平成27年5月1日現在）

学部	学科	学生数				教員数		
		入学定員	編入学定員	収容定員	在籍学生数	専任	兼任	計
経済学部	経済学科	250	—	1,000	1,053	26	26	52
	経営学科	150	—	600	717	15	28	43
社会学部	社会学科	150	—	600	561	28	39	67
	国際観光学科	120	10	520	510	16	17	33
流通情報学部	流通情報学科	160	20	720	611	21	25	46
法学部	ビジネス法学科	100	5	420	430	13	16	29
	自治行政学科	100	5	420	450	13	14	27
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	200	—	800	946	24	26	50
合計		1,230	40	5,080	5,278	156	191	347

(注) 社会学科は、平成20(2008)年度より入学定員を変更(△30人：180人→150人)。

【大学院】（平成27年5月1日現在）

研究科	専攻	学生数			教員数		
		入学定員	収容定員	在籍学生数	専任	兼任	計
経済学研究科	経済学専攻（修士課程）	10	20	4	18	1	19
	経済学専攻（博士後期課程）	5	15	0	10	0	10
社会学研究科	社会学専攻（修士課程）	10	20	6	17	0	17
	社会学専攻（博士後期課程）	5	15	2	11	0	11
物流情報学研究科	物流情報学専攻（修士課程）	20	40	29	9	0	9
	物流情報学専攻（博士後期課程）	5	15	3	6	0	6
法学研究科	リーガルガバナンス専攻	10	20	0	13	3	16
スポーツ健康科学研究科	スポーツ科学専攻	10	20	21	20	8	28
合計		75	165	65	104	12	116

2 スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科の基本理念

（1）大学におけるスポーツ健康科学部の位置づけと実績

本学は、建学の理念や目的を基礎に置きながら、常に時代のニーズや社会の方向性を認識しつつ、広く社会に貢献し得る有用な人材の育成を目指してきた。そして、少子・高齢化を迎えた我が国の状況を踏まえ、健康や福祉の増進により心ゆたかな生活を創造することが求められる中で、体育・スポーツを通じて健康的な人や社会づくりに貢献し得る人材の育成が急務と考えた。

そのような背景の中で、スポーツ健康科学部は、本学5つ目の学部として平成18年4月に開設され、平成27年度において9年目となる。1学科（スポーツ健康科学科）体制のもと、これまでに、スポーツ・教育界を始め、社会の各方面に1500人以上の卒業生を送り出してきた。

（2）スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科の教育目標

スポーツ健康科学部では、教育目標を「スポーツと健康の領域に関して、人間力と生命の尊厳を柱に多様な経験と専門的知識をもって諸問題を積極的に解決できる人材の育成を目的とする。」と定めている。そして、既存学科であるスポーツ健康科学科では、「スポーツの競技力向上、青少年から高齢者にいたる健康の維持・増進活動、学校教育や社会教育の推進に寄与できる人材の養成」を教育上の目標とし、以下に示すディプロマポリシーを設定している。

- ・ゆたかな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるとともに、生命教育を中心としたスポーツ健康科学の学問内容及び方法を理解している。【知識】
- ・自ら設定した課題について、スポーツ健康科学の学問領域の知識を用いて考察し、自分の考えを口頭表現、文章表現や身体表現によつて的確に伝えることができる。【技能】
- ・スポーツ健康科学の知を実践の力へと高め、地域社会及び国際社会のニーズにこたえることができる。【態度】

以上のように、スポーツ健康科学科は、比較的「ヒト」に着目してスポーツや健康といった側面から社会に貢献しうる人材を育成・輩出することが念頭に置かれている。すなわち、高められた個人の資質・能力をもって、社会の中で暮らしている個人に寄り添い、よりよい生活を送るための支援を積極的にできる人材を輩出しようとしている。このような人材は、今後も様々な分野で一定以上の社会的ニーズを維持していくと考えられ、少子・高齢化や社会的不適応児の増加、情報通信技術（ICT）の発達等、近年わが国で生じている社会的な現象に対してもスポーツや健康の領域から貢献できるものと考えられる。

しかし、グローバル化の進展やコミュニケーションスキルの欠如した児童・生徒の増加、地域スポーツの発展等といった課題に対して、社会的な要請に応じられる人材を輩出することが困難になりつつあるのが現状である。

3 スポーツ健康科学部スポーツコミュニケーション学科の設置の趣旨及び必要性

(1) 社会的ニーズの現況とコミュニケーション能力の育成の必要性

平成25年に発足した、内閣総理大臣の諮問機関である教育再生実行会議において、『これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育、教師の在り方について（第七次提言）』（平成27年5月14日）において、「これからの時代を生きる人たちに必要とされる資質・能力」として、「想定外の事象や未知の事象に対しても、持つ力を総動員して主体的に解決していこうとする力」の必要性を示し、具体的に以下のような点が重要であるとしている。

- ・主体的に課題を発見し、解決に導く力、志、リーダーシップ
- ・創造性、チャレンジ精神、忍耐力、自己肯定感
- ・感性、思いやり、コミュニケーション能力、多様性を受容する力

また、日本ユネスコ国内委員会は、「持続可能な開発のための教育（Education for

Sustainable Development)」において、6つの「育みたい力」を以下のように示している。

- ・持続可能な開発に関する価値観（人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重等）
- ・体系的な思考力（問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方）
- ・代替案の思考力（批判力）
- ・データや情報の分析能力
- ・コミュニケーション能力
- ・リーダーシップの向上

上記のように、いずれも「コミュニケーション能力」が取り上げられており、教育によってコミュニケーション能力を育成することが重視されていることが分かる。そのような中、文部科学省は、子どもたちのコミュニケーション能力の育成を図るための具体的な方策や普及のあり方について調査・検討を行うため、「コミュニケーション教育推進会議」（平成22年5月～）を設置している。そして、コミュニケーション能力を「いろいろな価値観や背景をもつ人々による集団において、相互関係を深め、共感しながら、人間関係やチームワークを形成し、正解のない課題や経験したことのない問題について、対話をして情報を共有し、自ら深く考え、相互に考えを伝え、深め合いつつ、合意形成・課題解決する能力」ととらえ、その育成の重要性を認めつつ、芸術表現体験活動を中心としたワークショップ型の授業展開事例を示し、その有効性について報告している。さらに、(社)日本経済団体連合会が発表した「新卒採用（2014年4月入社対象）に関するアンケート調査結果」（平成26年9月）を見ると、選考にあたって重視した点としてコミュニケーション能力が第1位（82.8%）であった。

以上のように、社会の一員としてコミュニケーション能力を高めることが非常に重要であることが各方面での共通見解となっており、かつ、現代におけるわれわれの生活実感からも同様の印象を指摘することができよう。このことから、社会・職業への橋渡しの側面を多分に有する大学が、学生のコミュニケーション能力を育成することに一定以上の役割を果たすのみでなく、コミュニケーションに関する学術的な知の体系化の一翼を担うことは、現在の社会的ニーズと今後の大学のあり方から見て必須のものであろう。

このようにコミュニケーション能力の向上に目が向けられるようになったのは、一つには、インターネットの普及を契機とする高度情報化社会の発展が挙げられるが、それに伴う経済活動の国際化・グローバル化の進展もその大きな理由として挙げられよう。文部科学省は「大学改革実行プラン」（平成24年6月）において「社会の変革を

担う人材育成等の知の拠点として大学が国の発展に果たすべき役割は大きく、かつ、多様である。」とし、大学の果たすべき役割にグローバル化に対応した人材育成や地域再生の核となる大学づくり（COC）等を掲げている。グローバル化に対応した人材育成では、その目標として「語学力向上や海外留学・交流の拡大等」を掲げ「外国語による授業実施や日本人学生の留学促進のための環境整備」等国際化の拠点大学の形成として施策を示している。COCの機能強化では「学生が主体的に学び、次世代を生き抜く力を育むことを前提に」、自治体、NPO法人、小・中・高校等の地域と連携しながら、地域の課題解決や地域貢献に参画し「フィールドワーク等を通じて、学生が社会の現実の課題解決に参加することで実践力を育成」という好循環をねらいとしている。

ここで、グローバル人材の定義として、語学力やコミュニケーション能力のみならず、主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感、異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ等が挙げられ、その他にも幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力、チームワークとリーダーシップ、公共性・倫理観、メディア・リテラシー等が示されている（グローバル人材育成推進会議、平成23年5月）。今後のわが国にとって、語学力も含めたコミュニケーション能力は、異文化理解や幅広い教養等といったグローバル人材の要素の中でも重要な位置づけであると理解できる。

上述したようなグローバル人材が社会的に要請され、その基礎となるコミュニケーション能力の育成がなぜ重視されるようになったのか、その背景の一つとして、社会の多様化（ダイバーシティ）が進み、そして現在もさらに進展しつつあるという現状がある。高度に情報化された社会と、経済の国際化・グローバル化により、多様な視点、多様な価値観を有する人や社会、文化と接触する機会が格段に増加したことが、上述した社会的ニーズとなって現れたと考えられる。また、このような多様化に伴って、さまざまなレベルの組織が抱える課題や問題点も多様化してきている。経済活動を例にすれば、日本企業の海外進出において現地における文化的・宗教的背景に配慮しながら事業を進める必要があることや、1つの事業体において異なる母語を有するメンバー間でのミス・コミュニケーションに起因する組織の運営・管理上の問題等である。このような複雑で複合的な諸問題に対して、リーダー単独で全てを解決に導くことは極めて困難な社会になっている。そこで、全てをリーダーに依存するのではなく、その組織に属するメンバーのなかで、当該の問題を解決するために必要な知識・能力をもつメンバーが、自ら積極的にリーダーや他のメンバーに働きかけて、その問題を一時的なリーダーとして解決に導くという組織運営のあり方、そして、そのようなスタイルのリーダーシップと同様に、メンバーが積極的に組織運営に関与する優れたフォロワーシップにも目を向けるべき時代が到来しているように思われる。そのような組織運営において、一人ひとりのメンバーが高度のコミュニケーション能力を有している必要があることは多言を要さないであろう。

リーダーシップ研究の第一人者である Carnegie Mellon 大学の Robert E. Kelley 教授は、その著書「The Power of Followership」(日本語訳:「指導力革命～リーダーシップからフォロワーシップへ～」)において、チームや組織の目標達成のためには、リーダーの助けとなる模範的なフォロワーの存在が極めて重要であると説いている。すなわち、単にリーダーに服従するだけのメンバーではなく、リーダーを尊重しつつ、建設的批判精神をもってチーム・組織の成功に向けて自発的に貢献するメンバーということである。このようなメンバー(模範的フォロワー)は、リーダーとしての資質・能力も併せ持ち、リーダーや他のメンバーと積極的かつ効果的にコミュニケーションをとることができなければならない。

わが国の社会において、リーダーの育成が喫緊の課題であることは論を俟たないが、一方でリーダー的資質を有する模範的なフォロワーとして社会で活躍できる人材を育成することは、今後さらに重要性を増すものと考えられる。

(2) スポーツコミュニケーションを学ぶことの意義

文部科学省の「スポーツ立国戦略」(平成22年8月)にもあるように、「スポーツは、世界の人々に大きな感動や楽しみ、活力をもたらすものであり、言語や生活習慣の違いを超え、人類が共同して発展させてきた世界共通の文化の一つである」。そして、「スポーツは、人格の形成、体力の向上、健康長寿の礎であるとともに、地域の活性化や、スポーツ産業の広がりによる経済的効果等、明るく豊かで活力に満ちた社会を形成する上で欠かすことのできない存在である」。このような、スポーツの存在価値や実践を通じた社会的意義について、次のような点を掲げている。

- ・コミュニケーション能力やリーダーシップの育成、克己心やフェアプレイ、チームワークの精神の涵養、自然体験活動を通じた豊かな人間性の育成等により、青少年の心身の健全な発達に資する。
- ・スポーツを通じた交流は、地域の一体感や活力を醸成し、人間関係の希薄化等の問題を抱える地域社会の再生につながる。
- ・スポーツ振興によるスポーツ産業の広がりや、新たな需要と雇用を生み、我が国の経済成長に資するとともに、スポーツによる国民の心身の健康の保持増進は、医療・介護費抑制等の経済的効果を生む。
- ・スポーツの国際交流は、言語や生活習慣の違いを超え、同一のルールの下で互いに競い合うこと等により、世界の人々との相互の理解を促進し、国際的な友好と親善に資する。
- ・国際競技大会等における日本人選手の活躍は、我々に日本人としての誇りと喜び、夢と感動を与え、国民の意識を高揚させ、社会全体の活力となるとともに、国際社会における我が国の存在感を高める。

そして、「少子高齢化社会を迎え、様々な課題に対峙しなければならない我が国にとって、スポーツの振興は、従前にも増して重要な責務となっている」としている。

また、上述した教育再生実行会議の「これからの時代に求められる資質・能力」は、スポーツを「する・みる・ささえる」ことを通じて学ばれ育まれる能力との共通点が非常に多く、現代におけるスポーツの意義は重みを持って理解されて良いように思われる。例えば、教育再生実行会議は「これからの世界を生きる上で、日本人としての文化や歴史、伝統を背景としたアイデンティティや国語力と並んで、英語を中心とした外国語による発信力や情報活用能力は不可欠である。」とグローバル人材化の重要性も示しているが、スポーツ立国戦略におけるスポーツの持つ意義として「スポーツの国際交流は、言語や生活習慣の違いを超え、同一のルールの下で互いに競い合うこと等により、世界の人々との相互の理解を促進し、国際的な友好と親善に資する。」とあるように、スポーツはグローバル人材を育成することにおいて有効な手段の一つである。つまり、現代社会において必要とされる資質や能力を具備したグローバル人材の育成は、スポーツを通じて養成することが十分可能であると考えられる。

スポーツを通じて得られる価値には、ヒトの健康の維持・増進に止まらず、上記に示したような社会性や社会的能力等も獲得できる可能性がある。一般的に、学校における課外活動（部活動）等においてスポーツ活動の経験を有するものが人間関係の構築において高い能力を示す傾向にあることは、経験的事実として知られているところである。これは、スポーツという場が社会において必要とされる様々な要素（俯瞰的な視点を持つことが必要なこと、他者との人間関係を築き、よりよくしようとする、目標を達成するために必要な行動を計画・実行すること、等々）をスポーツという身近な題材から体験的に学ぶことができるからであろう。しかし、このような社会的能力は、スポーツを通じて誰でもが獲得できることを保証するものではなく、あくまでもスポーツ実践者の自助努力に依存してきた側面が強い。また、たとえスポーツを通じて獲得された社会的能力であっても、高等学校までの段階では比較的狭隘な範囲で獲得された能力である場合が多く、スポーツ実践の目的（競技、レクリエーション、健康の維持・増進等）や対象者（健常者、高齢者、幼児、障がい者、等）に応じて、ゆたかなスポーツ実践を自ら作り出していく能力が自然に身につくわけではないであろう。今後、わが国のスポーツ愛好者の底辺を広げていくためには、高等学校までに学んだことをさらに上積みするような、より多様な目的で、より幅広い対象者のスポーツの場において、様々なコミュニケーション能力の発揮が求められる経験を通じて実践的に学修することが必要であり、それによって地域のスポーツコミュニティを形成して行くことができる人材の輩出につながると思われる。

(3) 新設するスポーツコミュニケーション学科の教育目標

以上述べてきたように、グローバル化の進展への対応力と、その過程で今後より強く求められるコミュニケーション能力の育成・向上を、社会に巣立っていく学生に対して十全に教授することが、現代社会においては焦眉の急であると考えられる。そこで、スポーツ健康科学部に新たに設置しようとしているスポーツコミュニケーション学科では、スポーツ実践の場がグローバル人材の育成とコミュニケーション能力の向上が期待できる優れた場であると解釈し、そのための方法論を（具体的には、「人と人」に関連が深いコーチング領域、「人と組織」を中心とするマネジメント領域、「人と社会」を対象とする情報・メディア領域）を学問的に考究・体系化しながら、その成果を教育実践に応用することを通じて、スポーツをする・みる・ささえる人材のみでなく、広く社会一般において有為な指導的人材を育成・輩出することを目指すこととした。これを達成するため、スポーツ実践の過程で現出する様々な状況のうち、特に他者あるいは組織・社会との「あいだ」に生じるコミュニケーションの場面や技法、問題点等を意識化・形式化して、これを教授する。

以上の目標を達成することにより、以下のようなことが期待できると考えている。

- ① 高度のコミュニケーション能力の発揮が求められる場で活躍できる幅広い職業人の養成・人材の輩出を通じた社会・経済活動の発展（「場」にはスポーツ関連活動のみに限定されない、汎用的な意味を含む）
- ② 様々な対象者（例えば幼児・児童・生徒、高齢者、障がい者等）が行う地域スポーツ及び競技スポーツ活動のさらなる促進（本学大学院のスポーツ健康科学研究科におけるスポーツプロモーション人材育成への橋渡しの位置づけを含む）

なお、ここに示した「高度のコミュニケーション能力」とは、前述した「コミュニケーション教育推進会議」における定義を考え方の基礎に置きながら、さまざまな「人」（たとえば子供や高齢者、競技者や障がい者、異なる文化や言語を持つ人々、等）、さまざまな「組織」（地域のスポーツ団体や会社の親睦会、学校や自治体、アマチュア球団とプロ球団、等）、さまざまな「社会」（農・漁村部や都市部、人口過密地域や過疎地域、スポーツの盛んな地域とそうでない地域、等）を対象として、相互理解を深めながらチームワークを形成し、新たなことにチャレンジすることを恐れず、目標達成のためにあらゆる情報共有手段を活用して、集団内の合意形成と課題解決ができる能力と定義した。

イ 学部、学科の特色

1 養成しようとする人材

前述した教育目標に基づき、スポーツコミュニケーション学科では以下のようなディプロマポリシーを設定した。

【スポーツコミュニケーション学科のディプロマポリシー】

- ・ スポーツ実践において必要となるコミュニケーション能力に関する知識・技能を身につけている人
- ・ スポーツを通じて学習したコミュニケーション能力をはじめとする社会的能力を、広く社会で通用する汎用的能力へ転換できる人
- ・ 「スポーツの力」を理解し、積極的にそれを社会貢献のために活用できる人

このディプロマポリシーを目指して教育を実践し、養成したいと考えている高度のコミュニケーション能力を持った人材像は以下のとおりである。

【養成しようとする人材像】

① アドベンチャー精神を持った人材

社会生活においては、新たな環境で、新たなテーマを、新たな方法・手段により達成・解決することが求められることがしばしばある。

どのような社会・世界においても挑戦する精神を持ち、失敗を恐れず省察的な態度で常に学び続けることができる。

② フォロワーシップ精神を持った人材

よい組織には、優れたリーダーのみでなく、組織の状況を正しく理解しつつリーダーを補佐する役割を担う模範的なフォロワーが必須である。組織・集団の目的を達成するために、リーダーシップとフォロワーシップの必要性を理解した上で、社会の一員として積極的に自らの役割を果たせる。

③ スポーツの価値を社会に還元できる人材

さまざまな場所、さまざまな場面において、スポーツは多様な価値を有している。特に、スポーツを通じて獲得した社会性や社会的能力を駆使し、スポーツの持つ力を広く社会に向けて還元・活用できる。

スポーツコミュニケーションの学修を通じて、このような知識・技能・態度を身につけた人材について、現今の社会的な必要性やニーズ、学生の将来等を勘案しつつ、一般企業（販売、サービス等）も視野に入れて、社会において指導的役割を果たすこと

ができる具体的な活動・貢献の場として、以下のようなものを想定している。なお、獲得・向上されたコミュニケーション能力は、社会におけるさまざまな場面で活用しうるので、特定の業種や職種に限定することが困難であるため、特にコミュニケーションを必要とすると考えられる職種について示すとともに、体育・スポーツ・健康に関連する分野の中でもコミュニケーションに関わりが深いと考えられるものに絞って挙げている。

【具体的な職場や職業のイメージ】

- ① 一般企業や公務員等
教育・学習支援系（フィットネスクラブトレーナー、スポーツ塾講師等）、卸売・小売系（販売促進等）、サービス関連（マーケティング、企画・広告、スポーツツーリズムのコンダクター等）、公営スポーツ施設の運営・管理やスポーツイベントの企画・運営担当事務職員（あるいは専門職員）、その他適確な連携行動を要する職（教員、消防士、警察官、自衛官等）
- ② 各種スポーツ関連団体（競技スポーツ、地域スポーツ等）
スポーツ活動をサポートするコーチや指導者、チームの広報担当者や戦力分析担当者（アナリスト）、チーム運営総務担当者、アウトドアスポーツインストラクター
- ③ スポーツ関連企業、スポーツメディア
スポーツ用品の開発・販売担当者、スポーツイベント（国際競技大会、一般企業の運動会等）の企画運営スタッフ、放送事業体やマスメディアにおけるカメラマンや記者等、スポーツ関連ウェブサイト運営担当者
- ④ 国際的なスポーツの発展・普及・支援
競技スポーツにおける競技者や指導者、代理人、海外青年協力隊員（指導者、現地コーディネーター等）

2 教育内容

このたび新設しようとする学科は、既設の「スポーツ健康科学部」内に置く。したがって、スポーツ健康科学一般に関する基礎的な教育内容は、既設のスポーツ健康科学科と共通する部分が少なくない。そして、学部の教育目標を達成するために必須の教育内容も考慮しながら新設する学科の教育内容を設定する必要がある。

上述した、「養成しようとする人材」を輩出するためには、幅広い教養を身につけ、獲得した知識をフル活用して様々な問題を発見し解決に導くという能力が必須である。そのためには、ツールとしてのコミュニケーション能力を向上することが有効であり、スポーツはその優れた場として効果的に機能するという前提のもとで、さまざまな実

践の場において気づきを促すような授業科目の配置に配慮し、新設しようとする学科の教育内容を以下のとおりとした。

① 学部基礎

体育・スポーツ・健康の領域において必須と考えられる基礎的な知識や技能に関する科目群を配置する。これまでスポーツ健康科学部において行われてきた必修科目やスポーツ実技、専門基礎科目の一部に該当するもので、スポーツや健康についての基礎的な理論や方法論について学ぶ。

② 学科基礎

スポーツの実践場面において現出する、対人関係や組織におけるコミュニケーションのあり方、より多様な対象（1対多、多言語等）とのコミュニケーションにおける特性、さらにはそれらのコミュニケーションを支えている表現方法の基礎と実際の両面について学ぶ。

③ 専門発展

社会におけるスポーツの存在意義や価値、文化的側面等を踏まえて、スポーツを通してわれわれが社会とどのようにつながり、社会のあり方や発展にどのように寄与・貢献しているか（すべきか）等、よりグローバルな視点に立って学際的にスポーツを学ぶ。

上記の他、本学の教育方針・特色を教育内容に反映させるため、学生のキャリア形成を促す「キャリア科目」や、真の教養人へと導く「教養基礎科目」を全学的に履修させる体制をとること、並びに、体育・スポーツ・健康に関連した各種の資格を取得するために必要な資格関連科目群を配置することによって、学生がさまざまな分野・領域で多様化した社会のニーズに応え活躍できるよう、教育内容を整備する。

3 教育体制

上述した「養成しようとする人材」を新設の学科において教育・輩出していくため、現状の既設学部における教育体制に加え、以下のような特色を有する教育体制を構築する。

(1) 実習・演習の重視

本学の教育方針である「実学主義」を具現化する上で、スポーツコミュニケーション学科では、その実践的かつ学際的な特長を活かして実習・演習を重視した教育環境を提供する。スポーツ自体が実践的であることに加えて、コミュニケーションに関連す

る学問分野は、実際の人と人、人と組織といった「関係性」の中から生じた学体系でもあることから、実習・演習型の授業科目が方法・手段として選択されることは必然であると考えている。ただし、後述するように、「理論なき実践」の陥穽に嵌まらないためには、これも後述する履修の自由度を確保した上で、理論と実践の相互作用が効果的に生まれるような科目と教員の配置が不可欠であると考えている。

(2) 履修の自由度の拡大

上述のように、輩出したい人材が将来的に進む進路（職場・職業イメージ）は多岐にわたることを想定している。これは、スポーツコミュニケーション学科における学びを通じて獲得・向上されたコミュニケーション能力は、スポーツにおいてのみでなく様々な分野・領域において役立つものと考えているからである。そこで、特定の将来像を想定して教育体制を構築するのではなく、学生の進路に寄り添うような、可能な限り幅広い内容の授業科目を配置・提供する体制を構築する必要がある。

本学では、「教養教育の重視」という立場を建学当初から堅持しており、教養科目を多数配置している。また、スポーツコミュニケーション学科では、スポーツとコミュニケーションそれぞれに関連する一定のバリエーションを持った科目群を学科として配置することで、各々の学生の関心領域や将来の進路等に関連した学修が実現できるよう、履修の自由度を確保したいと考えている。

(3) 教育の質保証

教育の質を保証することは重要であり、そのための基盤を構築し運用することはさらに重要である。そのために、以下の諸点について配慮した。

① 入学定員

入学定員は1学科について1学年100人とする。後にも述べるように、大学として全体の入学定員数を変えずに他の学部・学科の定員数を減少させて100人を確保するという側面のみでなく、教育に関する本学の基本的な考え方でもある「少人数教育」に則ったものである。これにより、身近なロールモデルとしての教員と学生との距離感を縮め、上述した実習・演習型授業の円滑化を促進すると考えられる。

② 少人数での授業

上述したように、履修の自由度を拡大することで、1つの授業を履修する学生数は相対的に減少する。それによって教員と学生とのディスカッションを促進することになる。このことは、結果として個人間コミュニケーション能力の実践面での向上にも寄与すると考えられる。

③ 理論と実践のインタラクション

実習・演習を重視した教育体制を構築することで、空理・空論に拘泥することの

ない、実践を通じた理論への気づきや、理論をベースとした実践面への応用といった、学生に対して省察を効果的に促すような理論と実践の双方向性を意識した授業内容が求められる。そのため、理論と実践について両性具有する教員の配置が必要である。

(4) 大学外と連携した科目の配置

スポーツコミュニケーション学科は、スポーツ自身が優れたコミュニケーション能力向上の場であるという考え方を基礎に置いていることは既に述べているところである。しかし、当然ながらスポーツは大学内に限定されたものではなく、広く社会に浸透した（浸透させていくべき）もので、大学外との連携を視野に入れた授業科目を配置することが教育上の効果を高めるものと考えている。具体的には、以下のようなものである。

① 学校教育

小・中・高の各学校は、学生たちが直近まで身近にスポーツ・体育実践を経験してきた場である。そこでの体育授業補助や課外活動指導補助といった実践経験を経ることで、各学校の運営を客観視するという貴重な実践経験を得ることができる。本学及びスポーツ健康科学部では、これまでも様々な機会をとらえて地域の小・中学校と連携した授業や研究を実践したり、茨城県における高大連携事業に参画したりしている。さらに、最近では附属高校（流通経済大学付属柏高等学校）との密接な連携を進めており、スポーツコミュニケーション学科ではこれらを科目として体系化することによって、より質の高い教員を養成するという目的のみでなく、効率的・効果的に若年層へのスポーツ指導のあり方やコミュニケーションの取り方等を学修する機会として提供することで、地域スポーツの発展を担う人材の育成に寄与すると考えている。

② 地域社会

近年、スポーツ型の非営利活動法人が多数開設され、地域住民の余暇活動等の場として有効利用されている。また、地方自治体は、スポーツを通じた健康の維持・増進を行政上の課題として認識し、様々なスポーツ関連イベントやセミナーが実施されている。これらの活動は、当然のことながら人によって運営されており、それらがどのように機能しているのかも含めて、その場に入って実務経験を通じて学ぶことが非常に効果的であることは、誰もが首肯しうるものであろう。

流通経済大学は、龍ヶ崎市と連携協定を結んでおり（「龍・流連携」と呼ばれている）、相互に事業運営上の協力関係を構築している。この協定を利用しつつ、地域におけるスポーツのあり方を考えるきっかけとなるような授業科目を配置することがスポーツコミュニケーションの教育効果を高めることにつながるはずである。また、龍ヶ崎市のみでなく、他の地域においても活動の範囲を広げていくこ

とで、様々な地域の、様々な文化的背景を知るきっかけにもなり、コミュニケーション能力の向上もさることながら、スポーツが地域においてどうあるべきか、どうつながっていくべきかといった観点から考察しようとする意識を高揚させると考えられる。

③ その他

上記以外にも、一般企業におけるスポーツやコミュニケーションについて学ぶ機会を得るため、学校法人の出捐母体である日本通運（株）が社員教育のために開講しているセミナーをスポーツコミュニケーション学科の方針に合わせた形で学生に提供することなどが必要であると考えている。

以上述べてきたスポーツコミュニケーション学科の特色の全体像を示す概略図については、資料 1 に示した。

ウ 学部、学科の名称及び学位の名称

以上のことを踏まえ、今回、既設のスポーツ健康科学部に新設しようとする学科の名称、学位の名称、入学定員、及び開設時期は、以下のとおりとする。

学部の名称	スポーツ健康科学部	The Faculty of Health and Sport Sciences
学科の名称	スポーツコミュニケーション学科	Department of Sport Communication
学位の名称	学士（スポーツ健康科学） ※1	Bachelor (Health and Sport Sciences)
入学定員	100人（第1年次） ※2	[収容定員：400人]
開設時期	平成29年4月（第1年次）	

※1 既設学部学科に同じ

※2 他学部学科の定員減により確保

1 学科、学位の名称

「スポーツコミュニケーション」という用語は、スポーツとコミュニケーションを組み合わせた造語であるが、グローバル人材の育成やコミュニケーション能力の向上という点でスポーツが果たす役割や機能を表現しようとしたものであり、かつ、スポーツ及びコミュニケーションに関する学問分野それぞれが共に有する学際性をさらに発展させる上で相乗効果が期待できるものと考えた。これまでのスポーツに関連する学問分野は、競技スポーツや生涯スポーツといった、体育・スポーツ・健康の実践者に向けた知見を体系化することに中心的な役割を担っていたと言える。すなわち、やや内向きであったことは否めない。しかし、社会のグローバル化や異文化間の交流が進展した現今では、社会とのつながりや社会への貢献といった視点をスポーツの分野においても持つべきであると考えられる。一方で、コミュニケーションに関連する学問分野では、言語学や社会学、心理学といったさまざまな基礎的学問分野にまたがって学際的な研究がなされており、人と人、人と組織、人と社会といった関係を探求する上でその応用範囲は広大である。スポーツにおいて発生する独特のコミュニケーション（ゲーム中のアイ・コンタクトといったノンバーバルなものや、「わざ言語」のような特異な指導語の開発等）などは、コミュニケーション研究における対象として探求する価値があると考えられる。しかし、スポーツ分野も同様に学際的ではあるものの、コミュニケーションに着目した研究は極めて少ない現状にある。スポーツの可能性をさらに広げ、社会にその成果を還元し寄与する上で、スポーツ現象の内側のみで完結するコミュニケーションに止まることなく、体育・スポーツ学を基盤としながら、コミュニケーション研究における学問的な成果を援用して「開かれたスポーツ」

を探究することは、これからの体育・スポーツ学を発展させる上で重要である。同時に、スポーツコミュニケーションの成果がコミュニケーション研究における学問知の蓄積・体系化に役立つことも期待できると考える。学科の名称を「スポーツコミュニケーション学科」とした理由は、以上のような学問的意義に加え、上述してきたようなスポーツ実践を通じたコミュニケーション能力の育成・向上効果の期待感を端的に表現していると考えたからである。また、学位の名称を「学士（スポーツ健康科学）」とした理由は、既存の学部との整合性を考慮したことによる。

英語表記に関しては、造語である「スポーツコミュニケーション」をそのまま「Sport Communication」としたのは、本学科では、コミュニケーション能力の育成に資するスポーツの関与の仕方が「における (in)」「のための (for)」「を通じた (through)」といった様々ならえ方ができると考えたため、接続詞による範囲の限定をあえて避け、Sport と Communication の間をそのまま接続した。また、学科を「Department」、学位を「Bachelor」としたのは、それぞれ一般的な使い方をそのまま採用したことが理由である。

2 入学定員

スポーツコミュニケーション学科の入学定員を100人とした理由は、以下の点について考慮したことによる。

(1) 入学定員の確保による大学経営の安定化

少子化が進行し進学者数が減少しつつあるとともに、全国的に体育・スポーツ・健康系の大学や学部、コース等が増加していることで志願者の分散化が生じていることを踏まえ、定員確保の持続可能性と大学経営の安定化が図れるようにする。

(2) 教育の質の維持・向上

本学における少人数教育の方針のもと、これまでの1ゼミナールあたりの人数（概ね15人）を超えないよう（あるいはそれよりも少なくなるよう）配慮し、学生と教員が密にコミュニケーションをとることが可能な人数に止める。また、学科の性質上、演習や実習科目の重要度が高いため、その意味でも少人数の授業ができるよう配慮する。

(3) 既設の学部・学科とのバランス

入学定員100人は、本学既設の学部・学科の人数と比較すると、経済学科（250人）、経営学科（150人）、社会学科（150人）、国際観光学科（120人）、流通情報学科（160人）、ビジネス法学科（100人）、自治行政学科（100人）、スポーツ健康科学科（200人）であり（平成26年度5月時点）、それらと比べて突出し

た数にならないようにする。

(4) 他大学の状況

全国の体育系・スポーツ系の大学や学部（平成26年度全国体育系大学学長・学部長会議加盟大学27大学対象）について、1学科あたりの平均人数を調べてみると約180人で、1学部あたりの平均人数は約310人であった。また、1学部2学科体制の大学のみに限定した場合、1学科あたりの平均で約140人、1学部平均では約280人であった。本学部の定員はこれらと比較して平均的またはそれ以下になるよう配慮する。

3 開設時期

開設時期を平成29年4月とした理由は、平成27年度に本学が50周年を迎え、「スポーツコミュニケーション学科」の設置を契機として、次の50年、そしてその先へと本学がさらに発展し、これまで以上に社会的役割を果たしていくことを企図したことによる。

エ 教育課程の編成の考え方及び特色

1 科目区分、科目構成の設定の考え方

前述した「ディプロマポリシー」「養成しようとする人材像」「教育内容」「教育体制」等を踏まえて、以下の「カリキュラムポリシー」に則り、科目区分、科目構成を設定した。

【スポーツコミュニケーション学科のカリキュラムポリシー】

- ・ 学部の基盤となるスポーツ健康科学の基礎を学修するために、学部必修科目、学部基礎科目を配置する
- ・ 学科の基盤となるスポーツコミュニケーションの基礎を学修するために、学科必修科目と学科基礎科目を配置する
- ・ スポーツに関連したコミュニケーションを学修するために、3つの専門領域（マネジメント領域、情報・メディア領域、コーチング領域）を配置する
- ・ 学科必修科目や専門科目では、課題発見・解決能力、論理的思考力や多様な観点から考察する能力を育むために、演習や実習を重視し、実践を通して体系的に学修できるように年次配当をする
- ・ 幅広い教養と豊かな人間性を涵養し、総合的な表現力を培うために、外国語科目、キャリア科目、教養基礎科目を配置する
- ・ アドベンチャー精神とフォロワーシップ精神を持った人材を養成するために、体育・スポーツ学と「人と人・組織・社会との関係」を中心としたコミュニケーション研究を関連付けて学修できるように、ゼミや学科基礎科目を配置する

以下に、カリキュラムポリシーに基づいた科目区分を示す。

カリキュラムポリシーを基にした科目区分

科目区分		単位数	
必修科目	学部必修科目	30 : 必修	
	学科必修科目		
	外国語科目	6 : 必修	
選択必修科目	キャリア科目	キャリア形成	6以上 : 選択必修
		社会・企業研究	
		進路支援	
	教養基礎科目	言葉や思想に関する領域	16以上 : 選択必修
		社会や健康に関する領域	
		自然や環境に関する領域	
		歴史や文学に関する領域	
学科基礎科目	コミュニケーション領域	8以上 : 選択必修	
学部基礎科目	I～III	20以上 : 選択必修	
スポーツ実技科目	I～IV	7以上 : 選択必修	
選択科目	専門発展科目	学際的な領域	
		マネジメント領域	
		情報・メディア領域	
		コーチング領域	
	資格基礎科目		
外国語選択科目			
自由科目	資格発展科目	(自由科目のため卒業要件に算入しない。)	

2 科目区分

科目区分は、以下の5つに大別される。

- ①大学全学部に共通する科目（外国語科目、キャリア科目、教養基礎科目、外国語選択科目）
- ②スポーツ健康科学部に共通する科目（学部必修科目、学部基礎科目、スポーツ実技科目、資格科目）
- ③スポーツコミュニケーション学科の基礎となる科目（学科必修科目、学科基礎科目）
- ④スポーツコミュニケーション学科の専門性を発展させる科目（専門発展科目）
- ⑤資格取得に必要な科目（資格基礎・発展科目）

3 科目構成

(1) 大学全学部に通ずる科目

全学共通で開講する科目は、「外国語科目」「情報科目」「キャリア科目」「教養基礎科目」から構成される。

1) 外国語科目（8単位必修）

外国語は、グローバル人材に必須となる英語を必修科目とし、「Comprehensive English 初級 I・II」「Introduction to TOEIC I・II」「English Communication 初級 I・II」を6単位履修する。プラス2単位は、学科基礎科目に配置している「実践コミュニケーション英語」「スポーツ関連英語」から履修する。なお、外国人留学生は、英語に替えて「(外) 日本語」を履修する。

2) キャリア科目（6単位以上選択必修）

キャリア科目は、社会的・職業的に自立するための能力を涵養することを目的としている。「キャリア形成」（ボランティア活動、海外研修、将来のキャリア設計について学ぶ）、「社会・企業研究」（企業による寄付講座やインターンシップ等）、「進路支援」（就職活動等をサポートする）の3つの領域から履修できる。

3) 教養基礎科目（16単位以上選択必修）

教養基礎科目は、幅広い教養を身につけることを目的としている。「言葉や思想に関する領域」「社会や健康に関する領域」「自然や環境に関する領域」「歴史や文学に関する領域」の4つの領域から履修できる。

4) 外国語選択科目（選択科目）

外国語選択科目は、必修で学んだ英語を基に、より発展的に学ぶことと、幅広く多様な外国語の基礎を学ぶことを目的としている。発展的な英語科目に加え、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮（韓国）語、ポルトガル語・ブラジル語等の多様な外国語の基礎的科目を履修できる。

(2) スポーツ健康科学部に共通する科目

学部に共通する科目は、「学部必修科目」「学部基礎科目」「スポーツ実技科目」「資格科目」から構成される。

1) 学部必修科目（22単位必修）

学部必修科目は、学部教育の中核的科目である。1年次に、「スポーツ健康科学概論」（スポーツ健康科学に関する基礎的な内容を、オムニバス形式で学ぶ）、「情報基礎 I」（情報機器を活用して、メディア・リテラシーやスキルを学ぶ）を履修する。2年次には、「海浜実習」（自然環境の中で、集団生活を通して、仲間とのコミュニケーションを構築しながら、様々な水辺活動を行う自然体験型プログ

ラム)を履修する。また、1～4年次には、学部教育の根幹となる「演習(ゼミ)」を履修する。

スポーツコミュニケーション学科では、「演習(ゼミ)」を中心に、学科が目指す人材を養成するために総合的に学修する。「アドベンチャー精神を持った人材」については、1年次で学ぶ「スポーツコミュニケーション実習(アドベンチャープログラム)」において、基礎的な知識・技能を実践的に学び、ゼミでの活動やその他の科目において、挑戦的な課題を提示したり、活動を省察したりする場面を設定することでアドベンチャー精神を身につける。また、「フォロワーシップ精神を持った人材」については、ゼミでのさまざまな活動を通して、リーダーシップとフォロワーシップを実践的に学ぶ。まず、ゼミにおける対人や集団において相互関係を深め、共感しながら人間関係やチームワークを形成する。さらに、互いにリーダーやフォロワーを経験し、個人や集団において省察を繰り返すことで、グループや集団で合意形成や問題解決をするためにはどのようなリーダーシップやフォロワーシップが必要かを学ぶ。これを基盤にして、その他の科目においても実践と省察を繰り返すことで、フォロワーシップ精神を身につける。

ゼミを担当する教員は、上記のアドベンチャー精神とフォロワーシップ精神を、ゼミを中心にしながら多様な科目群と関連させて学修させるために、教員自身がFDの機会を通じてアドベンチャープログラムを体験し、これらの精神について実践的に学ばせる教授法について繰り返し学ぶことで、目指す人材を養成できるようにすることを担保する。

以下に、各年次の演習(ゼミ)の到達目標を示す。

各年次における演習(ゼミ)の到達目標

1年次	初年次教育として「読む・聞く・書く・まとめる」といった基本的なラーニングスキルの習得を目指す。ペア・グループワークを通して、協働作業に必要なコミュニケーションと、チームワークを高めるためのリーダーシップやフォロワーシップを実践的に学ぶ。
2年次	授業で作成したレポートや論文、収集した資料等を記録する学修ポートフォリオを作成し、学びとキャリアを統合させるべく、専門分野への発展に向けて自己の学修スタイルを確立する。また1年次で学んだリーダーシップやフォロワーシップをさらに高めることを学ぶ。
3年次	グループでプロジェクトを計画・実行・評価し、その遂行を通して、自らの言動について省察し、スポーツ活動の創出に必要なコミュニケーションや専門的な知識や技能について理解を深める。
4年次	プロジェクトにおける課題や成果について振り返り、計画や行動の改善を通して課題解決できる能力を身につける。学修した理論と実践の融合を図り、実社会に必要な汎用的能力へ統合する。

ゼミでは、リーダーシップ・フォロワーシップ能力が身についたか評価するために、以下の評価指標を用い、セメスターごとに5件法で自己評価・他者評価を行う。

スポーツコミュニケーション学科 リーダーシップ・フォロワーシップ評価指標
リーダーシップ評価指標 「私はグループでリーダーシップを発揮しなければならない時・・・」
Factor1: Decision (判断) 1. 良い判断ができる (判断力がすぐれている) 2. 状況に応じて素早く判断ができる 3. 大事な場面での確に判断ができる 4. 予測をしていない事態にも、落ち着いて対応ができる
Factor2: Persistent (忍耐) 5. 忍耐力を発揮することができる 6. 苦しい場面でも、辛抱することができる 7. 身体的な疲労や苦痛にもガマンすることができる 8. 粘り強く物事を遂行することができる
Factor3: Confidence (自信) 9. 自信に満ちた行動をとることができる 10. 自信を持って、グループをまとめることができる 11. プレッシャーの下でも自信を持って、自分の能力を発揮できる 12. 自信を持って、メンバーを説得することができる
Factor4: Norm (規範) 13. メンバーに、望ましい行動をとらせることができる 14. メンバーに、規則 (ルール) を守らせることができる 15. メンバーに、時間を守らせることができる 16. メンバーに、手本を示すことができる
Factor5: Responsibility (責任) 17. 自分の行動に責任を持つことができる 18. 自分の意見に責任を持つことができる 19. 他者への責任を意識することができる 20. 一度掲げた目標を、責任を持って達成することができる

<p>フォロワーシップ評価指標</p> <p>「私はグループの一員として・・・」</p>
<p>Factor1: Third Personal Support (三人称支援)</p> <p>1. グループ間の問題を解決させることができる</p> <p>2. グループ間のもめごとを上手に和解させることができる</p> <p>3. グループ内の雰囲気をよくすることができる</p>
<p>Factor2: Circumstantial Judgment (状況察知)</p> <p>4. リーダーが要求していることを察知することができる</p> <p>5. リーダーが求めることを上手にサポートできる</p> <p>6. その場の雰囲気を読むことができる</p>
<p>Factor3: Second Personal Support (二人称支援)</p> <p>7. リーダーを支援するために働くことができる</p> <p>8. リーダーの考えに同意することができる</p> <p>9. リーダーの気持ちを理解することができる</p>
<p>Factor4: Group Norm (集団規範)</p> <p>10. 規則 (ルール) を守ることができる</p> <p>11. 望ましい行動をとることができる</p> <p>12. 時間を守ることができる</p>

2) 学部基礎科目 (20単位選択必修)

学部基礎科目は、体育・スポーツ・健康の研究分野において、必須と考えられる基礎的な知識について学ぶことを目的としている。講義を中心とした授業科目で構成され、学生が希望する専門発展領域、卒業後の進路に必要な知識・技能に合わせて、20単位以上を履修できる。

3) スポーツ実技科目 (7単位選択必修)

スポーツ実技科目は、様々なスポーツ技能を幅広く身につけることを目的としている。「Ⅰ (個人競技)」「Ⅱ (ゴール型球技)」「Ⅲ (ベースボール型・ネット型球技)」「Ⅳ (武道・舞踊)」の4つの領域で構成される。選択必修としてⅠ、Ⅱ、Ⅲからそれぞれ2単位以上、Ⅳから1単位以上、合計7単位以上を履修できる。

(3) スポーツコミュニケーション学科の基礎となる科目

スポーツコミュニケーション学科の基礎となる科目は、学科必修科目と学科基礎科目から構成される。以下に、授業科目と年次配当を示す。

スポーツコミュニケーション学科の基礎となる科目

1 年次	2 年次	3 年次
【学科必修科目】		
スポーツコミュニケーション概論	グローバルスポーツ演習	プレビジネスプログラム I
スポーツコミュニケーション実習 (アドベンチャープログラム)		
【学科基礎科目】		
コミュニケーション論	フォロワーシップ論	
身体表現論	省察的学習論	
実践コミュニケーション英語 (Task-Based English)	スポーツ関連英語 (English in Action)	英語資格支援講座 (Lifelong English)

1) 学科必修科目 (8 単位必修)

学科必修科目は、スポーツコミュニケーションの基礎の学修と、スポーツを通じて学んだコミュニケーションを、社会で生きる汎用的能力へ転換させることを目的としている。

1 年次には「スポーツコミュニケーション概論」と「スポーツコミュニケーション実習 (アドベンチャープログラム)」を履修して、スポーツコミュニケーションの基礎と学びの態度 (アドベンチャー精神) を学ぶ。ここで獲得した態度 (アドベンチャー精神) は、ゼミをはじめ、その他の科目においても挑戦的に繰り返し課題を解決していくことで、質の高いアドベンチャー精神を持った人材を養成することを目的としている。

2 年次には「グローバルスポーツ演習」を履修して、地球規模の視野を持ちながら、身近な地域や組織の課題を題材に、様々な分野に影響を与えるスポーツの力について学修する。

3 年次には「プレビジネスプログラム I」を履修して、日本通運 NITTSU グループユニバーシティと連携し、企業人と大学生がインタラクティブに関わり合いながら、社会で必要なコミュニケーションスキルをはじめ、ビジネススキルやマナーについて学修する。(全て 2 単位)

2) 学科基礎科目 (8 単位以上選択必修)

学科基礎科目は、コミュニケーションの基礎について学ぶことと、スポーツを通じて英語を学ぶことを目的としている。1 年次から「コミュニケーション論」(コミュニケーションの目的や定義、分類や役割など、その機能やスタイルについて理解を深める)、「身体表現論」(身体を介した人間間の相互交流〈身体

的コミュニケーション)の視点から学ぶ)を履修できる。2年次には、「フォロワーシップ論」(フォロワーシップ精神の基礎について学ぶために、フォロワーシップ概念やその役割について、リーダーシップと協働的に学ぶ)と「省察的学習論」(体験したことを「ふりかえり」することで、学びにつなげていく学習法を実践的に学ぶ)を履修できる。

また、スポーツを通して、実践的に、英語によるコミュニケーション能力の向上を図るスポーツ専門英語科目を配置している。1年次に「実践コミュニケーション英語(Task-Based English)(スポーツその他の活動を行う中で必要とされる英語の四種のスキル(スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング)を総合的に学ぶ)、2年次に「スポーツ関連英語(English in Action)」(実際のスポーツ中継や、スポーツ記事などの内容を理解することや、運動や動作、動き方のポイントを伝えるための表現などを学ぶ)、3年次に「英語資格支援講座(Lifelong English)」(卒業後にも、継続して英語力を身につけることを目指し、学生自身にとって必要な英語の資格もしくはスキルとは何かを考え、自立学習できるように支援する)を履修できる。(全て2単位)

(4) スポーツコミュニケーション学科の専門性を発展させる科目(選択科目)

専門性を発展させる科目は、「専門発展科目」に配置する。専門領域は、スポーツ健康科学分野においてコミュニケーションが特に重要と考えられている「マネジメント」、「情報・メディア」、「コーチング」の3つの領域に分けている。それぞれの領域において、概論→演習→実習と年次を追うごとに体系的に科目を配置している。ここでは、スポーツ現場の専門的な知識・技能を理論的に学ぶ。それらを基に、学校現場や民間企業、地域社会や国際社会等、大学外と連携して演習や実習を中心に実践を通して省察的に学習することで、高度なコミュニケーション能力の獲得を目指す。また、学際的な領域の科目群は、それぞれの領域における学びを補完することや、よりグローバルにコミュニケーションを追求することを意図して、1年次から4年次にかけて選択科目として配置するので、学生自身の興味・関心、将来の職業選択に応じて履修できる。以下に、授業科目と年次配当を示す。

専門領域の到達目標と専門性を発展させる科目

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
【マネジメント領域 - チームで目標達成、課題解決ができる能力を追求する】			
スポーツマネジメント概論	スポーツマネジメント演習	スポーツマネジメント実習	
	スポーツと地域開発		
	スポーツと国際協力		
【情報・メディア領域 - 情報収集から分析・編集・発信までを追求する】			
スポーツ情報・メディア概論	ジャーナリズム論・演習	スポーツ・ジャーナリズム実習	
	スポーツ情報戦略・分析論	スポーツ・インテリジェンス実習	
【コーチング領域 - グッドコーチに求められる資質能力を追求する】			
コーチング概論	コーチング演習	コーチング実習	
	専門コーチング演習		
	(I 子どもスポーツ)		
	(II ボールゲーム)		
	(III 武 道)		
	(IV 表現系スポーツ)		
【学際的な領域 - グローバルにコミュニケーションを追求する】			
《社会学の科目群》 《経営学の科目群》 《情報学の科目群》 《法学の科目群》			

(5) 資格取得に必要な科目

資格取得に必要な科目は、選択科目（資格基礎科目）と自由科目（資格発展科目）に配置する。本学科では、スポーツに係る現場に、人材を輩出することを担保するために、既存学部と同様に、中学校教諭一種免許状（保健体育）、高等学校教諭一種免許状（保健体育）、及びトレーニング指導者、健康運動指導士、健康運動実践指導者の資格を取得できるようにする。それぞれの免許状や資格の取得に必要な科目について、資格基礎科目から講義科目を中心に選択科目として履修し、資格発展科目から演習・実習科目を中心に自由科目として履修する。

以上述べてきたスポーツコミュニケーション学科の教育課程の全体像については、**資料2**に示した。

オ 教員組織の編成の考え方及び特色

教員組織の編成は、大学共通の科目群（外国語科目、キャリア科目、教養科目）を担当する教員、学部共通の専門科目群（学部基礎科目、スポーツ実技科目、資格科目）を担当する教員、学科の主な専門科目群を担当する専任教員で構成される。本学科の設置にあたっては、新たな専任教員の採用6名とスポーツ健康科学科より4名、社会学部より1名の異動を行い、計11名の専任教員を配置する。ここでは、学科の専門科目を担当する本学科の1. 教員組織編成の基本的な考え方、2. 職名、年齢構成、学位、3. 教員組織の特徴について詳述する。

1 学科専門科目における教員組織編成の基本的な考え方

教員組織は、専任、兼担、兼任の各教員で編成する。

(1) 専任教員

学科の中心となる学科基礎科目、専門発展科目（学際的な領域を除く）は、専任教員12名がその多くを担当する。教員の選考にあたって配慮したことは、以下のとおりである。

1) 教育研究領域間のバランスと連携がとれる体制

教育課程で述べているとおり、本学科はスポーツコミュニケーションを学ぶための専門領域として、マネジメント、情報・メディア、コーチングをあげている。専任教員は、マネジメント領域（2名）、情報・メディア領域（1名）、コーチング領域（2名）の各領域に加え、学科基礎に含まれるコミュニケーションに関する領域（2名）、専門発展に含まれるスポーツ教育（2名）をはじめとしたスポーツ健康科学の専門領域（2名）において、バランス良く配置している。

2) 教育能力と研究能力のバランスのとれた教員

大学教員として研究活動に尽力し優れた研究業績をあげていることは重要であるが、大学全入時代を迎えて大学への進学の意味及び卒業後の将来設計等を十分に考慮していない学生もみられることから、研究のみでなく教育にも熱心な教員が必要である。

3) 実践（スポーツ現場、グローバル分野）に精通した教員

先述したイの教育体制で「理論と実践の相互作用が効果的に生まれるような科目と教員の配置」と述べているとおり、大学外と連携した実践教育を積極的に推進していくことを学科の特徴として掲げているので、教育現場を始め、スポーツに関連したNPO等の団体、スポーツ現場等において教育の場を提供できる教員、実践活動と教育を結びつけることができる教員を配置する。

4) 学科の中核的な科目における適切な教員の配置

学科の中核的な科目は、エの教育課程の編成で述べているとおり、学科必修科目と学科基礎科目に配置している。学科必修科目において、「スポーツコミュニケーション実習（アドベンチャープログラム）」ではプロジェクトアドベンチャーを活用するが、その活用において実務家としても熟知した教員を配置する。「グローバルスポーツ演習」では、スポーツが地域・国際社会や文化・経済活動において果たす役割について実践的に学ぶために、実務の経験が豊富な教員を配置する。いずれも必要な研究業績を有している。学科基礎科目においては、「コミュニケーション論」、「身体表現論」（兼任講師）には十分な研究業績を有する教員を配置する。「省察的学習論」は、「ふりかえり」を軸に据えた学習方法を、身につけることを目的とした科目であるが、それに対し、必要な教育経験と研究業績を有する教員を配置する。スポーツコミュニケーションと専門領域を結ぶ科目では、必要な研究業績を有する教員を配置する。そのうちスポーツ情報・メディア分野においては、スポーツ情報戦略関連を担当する教員とメディア関連を担当する教員の1名を配置する。メディア関連の教員は、研究業績において、スポーツとの関わりはやや薄れるが、報道・マスコミュニケーション分野において十分な実務経験と研究業績を有しており、今後スポーツメディアの教育を学科において推進していく。また、スポーツ専門英語としての「実践コミュニケーション英語（Task-Based English）」「スポーツ関連英語（English in Action）」においても、必要な教育経験と研究業績を有する教員を配置する。

（2）兼任教員

学科の専門科目を担当する兼担（学内）教員は、以下3タイプに分かれる。

1) 学部基礎を担当するスポーツ健康科学科に所属している教員

担当授業科目は、学部必修科目の「スポーツ健康科学概論（第1年次必修）」、学部基礎科目の「学部基礎科目群Ⅰ～Ⅲ（選択必修科目）」、及び「スポーツ実技科目」「資格科目（トレーニング指導士等）」等である。兼任教員が担当する理由については、スポーツ健康科学の基礎知識を学部共通で広く学ぶことが必要であること等があげられる。

2) 学際的な領域の科目を担当する社会学部、経済学部、流通情報学部、法学部に所属している教員

コミュニケーションを始めとして専門発展科目のマネジメント領域、情報・メディア領域、コーチング領域においてより広く深く学ぶために社会学や経営学、情報学等を基礎とした科目を担当する。

3) 教職科目を担当する教員

学部基礎科目の一部、および自由科目の資格科目（教員免許）を担当する。

教職免許を取得するために必要な教科に関する科目と教職に関する科目の多くを担当する。

(3) 兼任講師

教育の充実を図るために、専任教員や兼任教員でまかなえない科目において、兼任教員を配置する。

2 職名、年齢構成、学位

前項で示した教員組織編成の考え方に基づいて選任された学科の専任教員の職名ごとの年齢構成と男女構成〔（ ）内〕は、以下のとおりである。

区分	29歳以下 人	30～39歳 人	40～49歳 人	50～59歳 人	60～歳 人	計 人
教授			1	4	0	5
准教授			2			2
助教		3	1			4
(男性)		(2)	(4)	(3)	(0)	(9)
(女性)		(1)		(1)		(2)
計		3	4	4	0	11

学位の保有状況は、以下のとおりである。

区分	博士 人	修士 人	学士 人	計 人
教授	3	2		5
准教授		2		2
助教	1	3		4
計	4	7		11

3 教員組織の特徴

編成した教員組織の特徴として、以下のことがあげられる。

- ① 職位、年齢構成のバランスは概ねとれている。
- ② 博士の学位を有する者はやや少ないが、教育研究の推進に大きな問題はない。
新採用教員6名の学位は、博士2名、修士4名である。
既設学部から移籍する専任教員5名の学位は、博士2名、修士3名である。
- ③ 教育研究領域間のバランスは概ねとれている。
- ④ スポーツ関連組織の運営、学会等で活躍している。
- ⑤ 兼任教員、兼任教員の協力が得られる体制である。

問題点として女性教員がやや少ないことが挙げられるが、これについては漸次改善していく。

カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1 教育方法（履修方法）

本学科では「スポーツで育んだ能力を社会で生きるコミュニケーション能力に転換する」という教育目標を達成するために、以下の教育方法を実施している。また本学教育上の特色の一つである「少人数教育」を取り入れ、学生一人ひとりに対するきめ細やかな履修指導に重点を置いている。

（1）年次別教育方法（履修方法）

本学科では、必修科目として、1年次から4年次まで演習（ゼミ）を履修する。その他の必修科目（「学部必修科目」「学科必修科目」「外国語科目」）は1～3年次に履修する。ただし、外国語については、全学部共通で配置している英語科目を6単位履修するのに加え、2単位を「学科基礎科目」に配置するスポーツ専門英語科目から、1～3年次に履修できる。

選択必修科目として、学科の基礎を学ぶ「学科基礎科目」は、1年次から履修できる。スポーツ健康科学に関する知識を学ぶ「学部基礎科目」は、1年次から履修できるが、学科の専門領域に関連する科目をまず履修できるように、1年次配当の科目を設定した。「キャリア科目」「教養基礎科目」「スポーツ実技科目」は既存の学部と同様に1年次から履修できる。

選択科目として、「専門発展科目」は1年次から履修できる。また、「資格基礎科目」「外国語選択科目」は、それぞれの興味、関心に応じて、1年次から履修できる。

自由科目として、「資格発展科目」についても、それぞれの興味・関心、将来の希望する職種等に応じて、1年次から履修できる。

年次別教育方法（履修方法）

1年次	2年次	3年次	4年次
【必修科目】			
演習（ゼミ）			
学部必修科目			
学科必修科目			
外国語科目			
【選択必修科目】			
学科基礎科目			
学部基礎科目			
キャリア科目			
教養基礎科目			
スポーツ実技科目			
【選択科目】			
《専門発展科目》			
学際的な科目			
マネジメント領域の科目			
情報・メディア領域の科目			
コーチング領域の科目			
《資格基礎科目》			
《外国語選択科目》			
【自由科目】			
資格発展科目			

（２）少人数教育の実施

本学科では、1年次から4年次まで演習（ゼミ）に所属し、その中でゼミ担当教員が出席や成績を確認し、大学生活における相談等クラス担任の役割を果たす仕組みとなっている。入学定員に対する専任教員の割合では、一教員当たりの学生数は8.3人となり、学生一人ひとりに対し、きめ細やかな学修の指導が可能となる。またゼミではコミュニケーション能力の向上を図る目的から、1年次よりペアワークやグループワーク等を取り入れ、実践⇔省察⇔理論というサイクルによって学修効果を高めることが期待される。

（３）演習・実習科目の充実

本学科では、実践⇔省察⇔理論というサイクルを通して、各自のコミュニケーション

ン能力の向上を図る観点から、理論を中心とした座学での学修に限らず、学内での演習科目や学外での実習科目を充実させ、両者をバランスよく学修することで、より実践的なコミュニケーション能力を身につけていくことをねらいとしている。さらに各学年でのゼミでは、それらの演習・実習から得られたスキルや技能を振り返り、グループディスカッションやワークを通して省察することで、さらに高次のコミュニケーション能力を育成するものである。

2 履修方法及び指導体制

本学科では、スポーツコミュニケーションを基礎におきながら、「マネジメント」「情報・メディア」「コーチング」という3領域の学際分野となり、その配当科目数も多くなっている。これらを学生の希望する将来像や進路に向けて、適切に選択して学べるよう履修モデルを提示している。

また最高履修単位数は全学で統一されており、年間で1・2学年が44単位、3・4学年が49単位となっている。各学期の最高履修単位数は、1・2学年は26単位、3・4学年は28単位となっている。また資格取得を目指す学生のために、その上限枠以外からも資格関連科目が履修できるよう配置しているが、その場合は学生の学修時間が適切に確保されるように配慮する。

(1) RKU WEEK(新入生オリエンテーション)と学部学科ガイダンスの実施

本学では新入生が大学の環境に慣れるように、入学後一週間のRKU WEEK(新入生オリエンテーション)を全学で導入している。その際、学部・学科ガイダンスをはじめ、履修方法や履修登録等ゼミ単位で細やかな指導をしている。またこの期間学生の生活面をサポートし、相談相手となるために在學生によるチューデントアシスタントを導入している。さらに年間に一度ずつ在學生に対しても学部・学科ガイダンスを行い履修指導の徹底を図っている。また学力不振な学生に対しては、ゼミ担当教員を中心に定期的な面談を実施する。これによりその後の学修意欲の向上といった効果も期待できる。

(2) シラバスの提示と開示方法

4年間の履修計画を支援するために、すべての授業科目において半期科目は15回分、通年科目は30回分のシラバスを作成し、授業概要をはじめ到達目標、授業計画、評価方法、予習・復習時間等を学生に明示する。

シラバス及び履修要綱は、新入生に対してはRKU WEEK期間中の学部学科ガイダンスで配布するとともに、在學生に対しても学年毎に実施される学部学科ガイダンスで配

布する。またインターネット環境でも公開されており、学生はスマートフォンやタブレット端末等のモバイル機器からも常に閲覧・登録することができる。

(3) 履修モデルの提示と開示方法 (資料3)

本学科では学生各自の興味・関心、将来の生活設計に応じて「マネジメント領域」「情報・メディア領域」「コーチング領域」という3領域から計画的に履修するために履修モデルを提示している。履修モデルでは、「卒業後の進路」として、想定される4つのカテゴリーから、14の進路先を具体化し、そのために必要と考えるモデルを提示する。履修モデルは学内のインターネット環境でも公開されており、学生はスマートフォンやタブレット端末等のモバイル機器からも常に閲覧することができる。

(4つのカテゴリーと具体的な進路先)

- 1) 幅広い職種的一般企業、的確な連携行動が求められる教員、消防士、警察官、自衛官等
- 2) 競技スポーツから地域におけるスポーツまでをサポートするスタッフ (コーチ・指導者、広報、チームアナリスト、運営事務等)
- 3) スポーツ関連イベントの企画・運営 (イベント会社スタッフ等)、及びスポーツメディア関連 (放送局、新聞記者等) やスポーツ用品販売等
- 4) 国際的なスポーツの発展・普及・支援活動 (国際競技スポーツ、国際開発協力等)

3 卒業要件

本学科では、学生が卒業をする際、本学科に求められる専門性を十分に学修し、社会に対し有為な人材となるよう卒業要件を設けている。本学科の卒業単位数は124単位としているが、各科目区分の「卒業要件単位数」の合計単位数は93単位としたので、31単位はどの科目区分からも履修できる、縛りのない履修単位とした。これによって、学生自身が各自の興味や関心、また卒業後の進路等と関連づけて柔軟に履修できるようにしている。本学科における卒業に必要な単位数とその内容は次のとおりである。

卒業に必要な単位数

科目区分		卒業要件単位数		
必修科目	学部必修科目		30 : 必修	30
	学科必修科目			
	外国語科目		6 : 必修	6
選択必修科目	キャリア科目	キャリア形成	6 以上 : 選択必修	88 以上
		社会・企業研究		
		進路支援		
	教養基礎科目	言葉や思想に関する領域	16 以上 : 選択必修	
		社会や健康に関する領域		
		自然や環境に関する領域		
		歴史や文学に関する領域		
学科基礎科目	コミュニケーション領域	8 以上 : 選択必修		
学部基礎科目	I～III	20 以上 : 選択必修		
スポーツ実技科目	I～IV	7 以上 : 選択必修		
選択科目	専門発展科目	学際的な領域		
		マネジメント領域		
		情報・メディア領域		
		コーチング領域		
	資格基礎科目			
外国語選択科目				
自由科目	資格発展科目	(自由科目のため卒業要件に算入しない。)	-	
(注) 外国語の科目は、選択必修科目に含まれるスポーツ専門英語より2単位以上履修するため、合計8単位を履修することになる。		総計	124 以上	

4 取得可能な資格

本学科では、既設の学部で取得可能な資格のうち、卒業後の就職と関連の深い資格取得に必要な科目を、在籍期間中に履修できるように配慮した。配慮した資格は、次のとおりである。

教員免許状

免許状の種類	資格取得 受験資格 の別	卒業要 件との 関わり	追加科目 履修の 必要性
中学校教諭一種免許状（保健体育）	資格取得	なし	あり
高等学校教諭一種免許状（保健体育）			

民間資格

名 称	認定団体	資格取得 受験資格 の別	卒業要 件との 関わり	追加科目 履修の 必要性
共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ スポーツリーダー	公益財団法人日本体育協会	資格取得	なし	あり
健康運動指導士 健康運動実践指導者	公益財団法人 健康・体力づくり事業財団	受験資格	なし	なし
トレーニング指導者	特定非営利活動法人 日本トレーニング指導者協会	受験資格	なし	あり
救急法救急員	日本赤十字社	資格取得	なし	なし

キ 施設、設備等の整備計画

1 校地、運動場の整備計画

本学科設置予定の龍ヶ崎キャンパスは、茨城県龍ヶ崎市街地より北へ約1離れた小高い丘の上に位置し、JR常磐線「佐貫駅」からバスで10分のところにある（住所：茨城県龍ヶ崎市字平畑120）。本キャンパスは、校舎等敷地94,955㎡や運動場用地35,023㎡、ほか8,230㎡が整備済みであり、校地総面積は138,208㎡である。現在は、既設学部・学科の学生約2,500名の教育に使用しているが、6,000名までは教育可能な環境を有していることから、新学科（収容定員400名を予定）の学生を加えても2,900名程であり校地及び運動場は十分余裕をもった現況にある。運動場は、授業のほかに、課外活動や学生イベント、地域との連携による各種行事等多目的に使用される。また、中央広場や校舎・運動場周辺の空地には、テーブルやベンチが配置され休息や交流エリアとして利用されるほか、十分なフリースペースも残している。校舎内にも自由に使用できる学生ラウンジや談話室等を用意し、開放的で緑溢れるキャンパスの各所で、学生が快適で思い思いのキャンパスライフを過ごせるよう環境を整えている。

2 校舎等施設の整備計画

本学科は、既設の学部・学科の定員を減じ、大学全体の収容定員の変更を伴わずに開設するため、授業（講義、演習、実験・実習）は既設の校舎等を既設の学部・学科と共用しながら支障なく行うことが可能である。通常施設としては、各種教室、実習室、図書館、学生食堂等があり、またスポーツ関連施設としては、スポーツ健康センター、体育館、柔剣道場、武道場、多目的室内練習場、トレーニング場、そして多目的の運動場2面とテニスコートがあり、新学科で使用する機器等は2,777点を整備している。新学科の授業は、これらの既存施設を活用することにより実施可能である。

また研究室については、新学科の専任教員には個人研究室を用意し、非常勤教員には授業準備や休憩等に使用できる教員控室を用意し、パソコンや印刷・コピー機、Wi-Fiネットワーク環境等を整えている。

3 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学科を設置する龍ヶ崎キャンパス図書館は、6階建て4,199㎡に閲覧席615席、情報端末42台、AV再生装置23台、マイクロリーダー1台を設置している。また、蔵書約32万冊、逐次刊行物1,245種、人文社会科学等データベース（自然科学の「Web

of Science」を含む。) に関して15種を利用可能にしている。

本学科では、スポーツをテーマに学際的な分野を含めて様々なアプローチでコミュニケーションを学ぶため、スポーツに関する専門図書以外にも、本学が所有する図書や資料等が広く利用されるものと考えている。また、関連の専門データベースである「SPORTDiscus」も最先端のスポーツ科学情報の入手に一層活用されるものと思われる。

なお、専任教員は、洋書・和書を問わず、毎年20万円の範囲で自由に図書の購入ができ、さらに学部共通の予算内で特別図書も別途購入できるようになっている。教員（非常勤を含む。）からの推薦や学生からの要望も随時受け付けており、学生用の推薦図書と学生の希望図書についても充実を図っている。

ク 入学者選抜の概要

1 入学者受入方針（アドミッションポリシー）

前述した教育目標に基づき、スポーツコミュニケーション学科では以下のようなアドミッションポリシーを設定した。

【スポーツコミュニケーション学科のアドミッションポリシー】

- ・スポーツコミュニケーション学科の教育理念に賛同している。
- ・スポーツから得られるコミュニケーション能力に対して高い関心を持っている。
- ・スポーツの価値を自身の成長と実社会において広く活用することに意欲的である。

本学は、開学以来一貫して、すべての学部で「実学教育」を教育の基礎に据え、実業に秀でた、豊かな教養も兼ね備えた人材の育成を目標としてきている。

入学者選抜においては、この目標を達成すべく学生一人ひとりの資質を見出し、評価することを全学科共通の方針に定めており、本学科においてもこれを基本方針とする。

流通経済大学の入学者の受入方針は次のとおりである。

「本学は、産業界の広範な支援の基に設立された、産業連携を出発点とする大学である。我が国経済の繁栄のみならず福祉の向上と文化の発展にも貢献できる、視野の広い指導的人材の育成を目的とし、「優秀な産業人は優れた教養人でなければならない」との信念に基づき、開学以来、実学主義とリベラルアーツを重視した特色ある教育に取り組んできた。こうした本学の教育理念は、総合大学に発展した現在でも一貫しており、今日の世界情勢の中で我が国が国際競争力を高めていくためにも、個性と創造力の溢れる人材の育成をめざして実学教育を旨とする、本学の教育が果たすべき役割は極めて大きいといえる。

ゆえに、学生の受け入れにおいても、将来社会や産業界の期待と要請に応え得るであろう、必ずしも一様ではない能力や適性を見出し、それを本学の教育環境で育むことを目的として、選抜を行っている。一般入試や、大学入試センター試験利用入試における学力考査による入学者選抜に加えて、推薦入試やA0入試では、知・徳・体の人間的な総合力に優れた学生を選抜している。また、グローバル時代に活躍が期待される留学生も、広く海外から受け入れている。本学では、学生の選抜と受け入れに際しては、志願者の能力や適性を可能な限り多方面から見出し、何よりも公平かつ厳正な方法で選考に当たり、学生を受け入れることを旨としている。それによって、これからも夢と好奇心を持った学生に開かれた大学であり続けたい思う。」

2 どのような学生を受入れようとしているのか

本学科では、スポーツの持つ多様な価値のうち、とりわけその社会性と国際性に着目し、スポーツをテーマとする学修やスポーツ実践の場を通じて、コミュニケーションに関する専門的な知識と技能、態度を修得することを目的としている。

このことから、本学科に入学する学生像としては、まず何よりもスポーツが好きであること、そしてスポーツから得られるコミュニケーション能力に対して高い関心を持ち、それを自身の成長と実社会において広く活用することに意欲的であってほしい。したがって、入学者の選抜に際しては、学力考査はもとより、志望理由や、知・徳・体の人間的な総合力を測るための多様な選抜方式を整備したい。

特に、本学科の教育課程の編成は、今後さらに高度なコミュニケーション能力が必要とされると思われる以下の分野に対応しており、希望する進路が明確な学生を積極的に受け入れたい。

- ・ 一般企業や公務員等
教育・学習支援系（フィットネスクラブトレーナー、スポーツ塾講師等）、卸売・小売系（販売促進等）、サービス関連（マーケティング、企画・広告、スポーツツーリズムのコンダクター等）、公営スポーツ施設の運営・管理やスポーツイベントの企画・運営担当事務職員（あるいは専門職員）、その他適確な連携行動を要する職（教員、消防士、警察官、自衛官等）
- ・ 各種スポーツ関連団体（競技スポーツ、地域スポーツ等）
スポーツ活動をサポートするコーチや指導者、チームの広報担当者や戦力分析担当者（アナリスト）、チーム運営総務担当者、アウトドアスポーツインストラクター
- ・ スポーツ関連企業、スポーツメディア
スポーツ用品の開発・販売担当者、スポーツイベント（国際競技大会、一般企業の運動会等）の企画運営スタッフ、放送事業体やマスメディアにおけるカメラマンや記者等、スポーツ関連ウェブサイト運営担当者
- ・ 国際的なスポーツの発展・普及・支援
競技スポーツにおける競技者や指導者、代理人、海外青年協力隊員（指導者、現地コーディネーター等）

3 選抜方法及び選抜体制

選抜方法として、次の入学試験を実施する。

・ A O 入試

A O 一般

選抜方式：書類審査（調査書・面談用作文）、面談

※受験希望者には志望動機や入学後の活動、将来の進路について事前にエントリー面談を行い、新学科への理解を深めてもらいつつ、本人の進学への意欲を確認する。

A O 課外活動

選抜方式：書類審査（調査書）、面談、実技試験

・ 推薦入試

指定校推薦

※指定校の学校長が推薦する者を対象とする。

選抜方式：書類審査（調査書）、面接

自己推薦（公募制）

①一般

※全体の評定平均値が一定の水準以上の者を対象とする。

選抜方式：書類審査（調査書）、作文、面接

②得意科目特別

※全体及び得意科目の評定平均値が一定の水準以上の者を対象とする。

対象教科：保健体育、国語、地理・歴史、公民、数学、理科、外国語、商業、工業

選抜方式：書類審査（調査書）、面接

③取得資格特別

※全体の評定平均値が一定の水準以上で、指定する資格を有する者を対象とする。

対象資格：スポーツ競技において高校在籍中に優秀な成績を収めた者、部活動において主将などのリーダー的役割を担った者またはマネージャーなどのサポート的役割を担った者、TOEIC や TOEIC Bridge の得点が一定の水準以上の者

選抜方式：書類審査（調査書・資格を証明する資料）、面接

付属校推薦

※付属高校の学校長が推薦する者を対象とする。

選抜方式：書類審査（調査書・課題文）、面接

・一般入試

3科目型

試験科目：国語（国語総合 ※古文・漢文を除く）

外国語（コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、英語表現Ⅰ・Ⅱ）

選択科目（日本史B、世界史B、地理B、政治・経済、数学Ⅰ・数学A から1科目）

2科目型

下記の科目の中から2科目を選択して受験。但し1科目は「国語」もしくは「外国語」を選択。

試験科目：国語（国語総合 ※古文・漢文を除く）

外国語（コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、英語表現Ⅰ・Ⅱ）

選択科目（日本史B、世界史B、地理B、政治・経済、数学Ⅰ・数学A から1科目）

得意科目型

下記の科目から、それぞれ大設問を2問ずつ（合計8問）出題し、そのうち2問を自由に選択して解答。

出題科目：国語（国語総合 ※古文・漢文を除く）

外国語（コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、英語表現Ⅰ・Ⅱ）

数学（数学Ⅰ・数学A）

簿記・会計（簿記・会計）

・大学入試センター試験利用入試

3科目型

下記の科目について、大学入試センター試験の得点で判定する。

試験科目：国語（近代以降の文章 ※古文・漢文を除く）

外国語（英語 ※リスニングを除く）

選択科目（地理歴史、公民、数学、理科から1科目）

2科目型

下記の科目の中から高得点の2科目で判定する。但し、1科目は「国語」または「外国語」で判定する。

試験科目：国語（近代以降の文章 ※古文・漢文を除く）

外国語（英語 ※リスニングを除く）

選択科目（地理・歴史、公民、数学、理科から1科目）

- ・奨学生選抜入試 以下の入学試験で優秀な成績を収めた者を特別奨学生に採用し、奨学金を給付するとともに、特別な授業科目として「キャリア特講」「グローバルコミュニケーション」を設定する。

一般入試3科目型

試験科目：国語（国語総合 ※古文・漢文を除く）

外国語（コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、英語表現Ⅰ・Ⅱ）

選択科目（日本史B、世界史B、地理B、政治・経済、数学Ⅰ・数学A から1科目）

※出願時に目標シート（作文）の提出を課し、書類審査も行う。

大学入試センター試験利用入試3科目型

下記の科目について、大学入試センター試験の得点で判定する。

試験科目：国語（近代以降の文章 ※古文・漢文を除く）

外国語（英語 ※リスニングを除く）

選択科目（地理・歴史、公民、数学、理科から1科目）

※出願時に目標シート（作文）の提出を課し、書類審査も行う。

なお、選抜体制としては、上記それぞれの募集定員の割合を、AO入試（一般・やる気）20名、AO入試（課外）15名、推薦入試30名、一般入試20名、大学入試センター試験利用入試15名を予定している。

※一般入試と大学入試センター試験利用入試の募集定員には奨学生選抜入試の募集定員を含む。

ケ 実習の具体的計画

1 資格の取得に係る実習

本学科では、資格の取得に必要となる実習科目として、以下の科目を開講する。

〈教員免許に関する科目〉

- ・「教育実習（中学校）」
- ・「教育実習（高等学校）」
- ・「介護等体験実習（事前事後指導を含む）」

〈健康運動指導士資格に関する科目〉

- ・「健康産業施設等現場実習」

上記授業科目の具体的な実習計画は、以下のとおりである。

(1) 「教育実習（中学校）」「教育実習（高等学校）」

① ねらい

「教育実習（中学校）」は中学校教諭一種（保健体育）、「教育実習（高等学校）」は高等学校教諭一種（保健体育）の教員免許状取得にかかわる授業科目である。教育職員免許法施行規則では、「中学校教諭一種免許状」を取得するために4週間、「高等学校教諭一種免許状」を取得するために3週間の教育実習が課せられている。教育の現場に身を置きながら、生徒との関係作りや教材研究を深める等、教職者としての見識を広め、教育に携わる者の使命や役割を学ぶことをねらいとする。

② 実習先（教育実習校）の確保の状況（資料4-1、受入承諾書：資料6）

教育実習は、本学の付属高である流通経済大学付属柏高等学校、先述した「龍・流連携事業」で提携している茨城県龍ケ崎市内にある中学校から6校、また大学の近隣に位置する取手市と龍ケ崎市の県立高等学校から6校、合計13校から承諾を得ている。また、受け入れ人数は、当該年度の状況により適宜協議のうえ決定する。さらに教育実習生数が協力校だけで不足する場合は、学生の出身校が大学から近隣である場合に限り、学生の出身学校も視野に入れて実施する。

③ 実習水準の確保の方策

3年次の秋学期には「教育実習事前指導」が配置されており、実習に臨む心構え、教育実習の意義と課題、学習指導計画・学習指導案の作成、指導方法・評価方法等について学修する。さらに、模擬授業を実施し学生・教師間での相互評価を含め半期15回の授業計画を実施し、実習水準を確保している。

④ 実習先との連携体制（資料4-2）

実習先とは、a) 実習前後の指導内容、b) 実習内容、c) 実習の評価方法、

d) 事故が生じた際の責任体制、e) 児童生徒の個人情報の保護、f) 教員等の訪問指導体制等について、事前に綿密な情報交換を行う。これらを通して、実習水準の確保に鋭意努める。また、教育実習期間中に本学部の教員が必ず実習校に訪問し、担当する教科指導教員や担任教員と連携を図りながら指導をする。

⑤ 実習前の準備状況

学生は、事故等に遭遇したときに備えて保険に加入する。

⑥ 事前・事後における指導計画

事前・事後の指導は、全30回の「教育実習」の時間内で行われる。事前（10回）には、教育実習の目的と意義、心構えや模擬授業等を行う。また、事後（15回）には実習報告を行い、実習の振り返り、教員としての課題について討議を行う。再度、模擬授業と相互評価を通じ、教員としての適性を高める。

⑦ 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

本学部では、この授業科目に担当教員を配置しているが、教育実習に関しては、大学全体に関わる運営組織「教職課程運営委員会」により組織として運営する。巡回指導については、当該委員会を中心に、学科の専任教員で分担し指導を行う。

⑧ 実習施設における指導者の配置計画

実習先では、受け入れ校の協力により、教職課程運営委員会との連携体制のもと、当該校の教務主任や教育実習担当教員等によって、実習生に対する指導が行われる。教職志望者が学校や教員の職務を理解するために、授業における指導のみならず、学校における多様な教育活動について指導を受けることができる。

⑨ 成績評価体制及び単位認定方法

成績評価は、教職課程運営委員会を中心に、教育実習に関わる教員からの成績情報をまとめ、単位を認定する。事前・事後指導する教員からの評価、受け入れ先実習校からの評価、巡回指導教員からの評価等総合的に評価し単位認定する。

(2) 「介護等体験実習（事前事後指導を含む）」

① ねらい

この授業科目は、教員免許状（中学校教諭一種）の取得にかかわる科目である。免許法では、社会福祉施設と特別支援学校における7日間以上の介護等の体験が課せられている。

② 実習先の確保の状況

茨城県内にある社会福祉施設（5日間）、特別支援学校（2日間）を利用する。実習先に関しては、既設の学部と同様に、茨城県社会福祉協議会（社会福祉施設の受け入れ先）と、茨城県教育委員会（特別支援学校の受け入れ先）の主導及び協力により、受け入れ先を確保する。

③ 実習水準の確保の方策

実習前に、介護等体験の意義や目的、社会福祉施設や特別支援学校の概要、児童・生徒や保護者の特性、介護等体験の心構え、介護等体験で必要とされる基本的知識、技術の習得を目指し、介護等体験が有意義なものにできるように、「介護入門」という事前科目を履修させる。

④ 実習先との連携体制

実習先とは、a) 実習前後の指導内容、b) 実習内容、c) 実習の評価方法、d) 事故が生じた際の責任体制、e) 施設利用者や児童生徒の個人情報の保護等について、事前に綿密な情報交換を行う。このことを通して、実習水準の確保に鋭意努める。

⑤ 実習前の準備状況

学生は、事故等に遭遇したときに備えて保険に加入する。

⑥ 事前・事後における指導計画

実習前には、介護等体験の意義や目的、留意する事項、利用者・生徒の権利擁護について指導を行う。また実習後には報告書に加え、介護等体験の成果について討議を行う。

⑦ 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

この授業科目には担当教員1人を配置しているが、実習施設や学校との折衝等の業務が多いので、本学全体の教職課程の運営を担う教職課程運営委員会により運営する。巡回指導は実施しない。

⑧ 実習施設における指導者の配置計画

社会福祉施設においては、施設長統括の下、実習担当者が配置され勤務時間中の指導が行われている。また、実習中においては学生に対し実習日誌の記載指導を徹底している。特別支援学校においては、教頭や教務主任が受入れの統括となり、学校種の振り分け・クラス配置を行い、勤務中はクラス担任が実習の指導に当たっている。

⑨ 成績評価体制及び単位認定方法

担当教員を中心に、教職課程運営委員会の協力のもと、事前・事後指導の理解の状況、実習状況等について総合的に成績評価を行い、単位を認定する。

(3) 「健康産業施設等現場実習」

① ねらい

この授業科目は、民間資格「健康運動指導士」「健康運動実践指導者」（公益財団法人健康・体力づくり事業財団）の取得にかかわる科目である。資格取得のために、健康産業施設等での7日間40時間の現場研修・見学が課せられている。

② 実習先の確保の状況

本学部は、健康・体力づくり事業財団の健康運動指導士養成校として、既に認

定を受けている。実習先は、健康・体力づくり事業財団が示す健康産業施設等現場実習制度の要件を満たしている本学の「スポーツ健康センター」において実習を実施する。スポーツ健康センターでは市民講座や健康教室等を定期的に開催しており、その場を活用して実習を行う。

③ 実習水準の確保の方策

実習に参加するにあたっては、事前指導において必要な知識、技能、態度について学修させる。また、現場実習とはいえ、学内施設で実施されるため、実習中でも密接な指導が可能であり、適宜学生に対し指導を行うことで実習水準を確保する。

④ 実習先との連携体制

実習先とは、a) 実習前後の指導内容、b) 実習内容、c) 実習の評価方法、d) 事故が生じた際の責任体制、e) 施設利用者の個人情報の保護等について、事前に綿密な情報交換を行う。このことを通して、実習水準の確保に鋭意努める。

⑤ 実習前の準備状況

学生は、事故等に遭遇したときに備えて保険に加入する。

⑥ 事前・事後における指導計画

実習前には、現場での運動指導の留意点、運動指導の方法、実習に臨む心構え等について討議する。また、実習後には、現場指導での課題や今後の現場指導のあり方について討議する。

⑦ 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

この授業科目には担当教員1人を配置しており、学内の施設で実習をおこなうが、大学が開講する市民講座等市民の方々が対象となるため、それらを管轄する「スポーツ健康センター運営委員会」等とも連携し、担当教員を中心にして組織として対応する。学内施設で実施されるため巡回指導は実施しない。

⑧ 実習施設における指導者の配置計画

健康・体力づくり財団が示す要件の「実習生を適切に指導できる能力を有す者（指導士又は実践指導者の資格を有していることが望ましい）を配置していること」を満たす担当教員（健康運動指導士保有）を配置する。

⑨ 成績評価体制及び単位認定方法

事前・事後指導の理解の状況、実習状況等について総合的に成績評価をおこない、単位を認定する。

2 その他の学外実習

本学科では、資格の取得に必要となる実習科目以外に、学外での実習科目として以下

の科目を開講する。

〈学部共通の必修科目〉 ・「海浜実習」
〈学科必修科目〉 ・「プレビジネスプログラムⅠ」
〈専門発展科目〉 ・「プレビジネスプログラムⅡ」
〈教職に関する科目〉 ・「学校教育現場実習」

上記授業科目の具体的な実習計画は、以下のとおりである。

(1) 「海浜実習」

① ねらい

この授業科目は、スポーツ健康科学部の学生として、教育目標である「生命の尊厳」と「人間力」について考える機会を創出する。また、これらが将来どのように自らの学生生活に活かし、発展させるかを考えることをねらいとする。

② 実習先の確保の状況

「海浜実習」は、沖縄県渡嘉敷島の「国立沖縄青少年交流の家」の施設とビーチにおいて、3泊4日の日程で行う。

③ 実習先との連携体制

実習先の施設管理者とは事前に綿密な情報交換をおこなう。このことを通して、実習水準の確保に鋭意努める。

④ 成績評価体制及び単位認定方法

海浜実習の運営は、学部内に「海浜実習運営委員会」を設置し、複数の担当教員を中心にして取り組む。成績評価については、事前・事後指導の状況、実習の状況、課題の提出等総合的に評価し、単位を認定する。

⑤ その他

学生は、事故等に遭遇したときに備えて保険に加入する。

(2) 「プレビジネスプログラムⅠ・Ⅱ」

① ねらい

この授業科目は、大学と企業が学び合うことをコンセプトに、大学生は実際の企業人と討議しながら、キャリアについて考える機会やビジネススキル、ビジネスマナーについて学ぶ。企業人は社員研修等で学んだ知識を、大学生に教えるこ

とで学びを深めることをねらいとする。

② 実習先の確保の状況

「プレビジネスプログラム」は、日本通運グループ全体の人材育成・教育訓練の場である日本通運NITTSUグループユニバーシティと提携して、東京都港区にあるNEX-TEC芝浦（日本通運グループ人材開発センター）で行う。

③ 実習先との連携体制

実習先の施設管理者とは事前に綿密な情報交換をおこなう。このことを通して、実習水準の確保に鋭意努める。

④ 成績評価体制及び単位認定方法

評価については、実習受け入れ先の担当者と十分な連携体制をとり、事前・事後指導の状況、実習の状況、課題の提出等を総合的に評価し、単位を認定する。

⑤ その他

学生は、事故等に遭遇したときに備えて保険に加入する。

(3) 学校教育現場実習

① ねらい

この授業科目は、学校現場での実習を通して、基礎的な理論の理解（再確認）、専門的な理論の習得に向けた学修意欲の向上やキャリアデザイン（就職）について認識する。

② 実習先の確保の状況

本学と本学が位置する茨城県龍ケ崎市は、教育・文化、スポーツ、産業、人づくり・街づくり等の各分野において連携したまちづくりを行う「龍・流連携事業」を提携して実施している。既存学科では既に実施しているが、これを活用して龍ケ崎市内にある小・中学校において実習を実施する。

③ 実習先との連携体制

実習先の学校関係者とは事前に綿密な情報交換をおこなう。このことを通して、実習水準の確保に鋭意努める。

④ 成績評価体制及び単位認定方法

評価については、実習受け入れ先の担当者と十分な連携体制をとり、事前・事後指導の状況、実習の状況、課題の提出等を総合的に評価し、単位を認定する。

⑤ その他

学生は、事故等に遭遇したときに備えて保険に加入する。

以上の学外実習に係る各科目の実習先は、**資料5**に示した。

各実習先の受入承諾書は、**資料6**に添付。

コ 管理運営

教学面の管理運営組織については、「流通経済大学学則」第27条に教授会を置く
と規定されており、学部学科にかかる重要事項を審議することになっている。開催は、
必要に応じ随時行うことになっている。(休業期間を除き月1回の頻度で開催)

【学則 第27条抜粋】

第27条 各学部に教授会を置く。 2 教授会は、学部に所属する専任の教授、准教授、講師および助教をもって構成する。 3 教授会は、学部に係る次の事項を審議し、学長にその意見を述べるものとする。 (1) 教育課程に関する事項 (2) 学生の入学および卒業の認定に関する事項 (3) 学生の学内試験に関する事項 (4) 学生の学園生活に関する事項 (5) 学生の賞罰に関する事項 (6) 教員の教育研究業績の審査、選考に関する事項 (7) その他学部の教育研究および運営に関する重要事項 4 前項以外の各学部の教授会に関する事項は、各学部規則で定める。
--

また、「流通経済大学スポーツ健康科学部規則」の第4条に、学部運営委員会を置く
と規定されており、円滑な学部運営を目的としている。開催は、必要に応じ随時行う
ことになっている。(休業期間を除き月1回の頻度で開催)

【スポーツ健康科学部規則 第4条抜粋】

第4条 学部を円滑に運営するため、学部に学部運営委員会を置く。 2 学部運営委員会は、学部長および学部教授会を構成する専任教員のなかから選出さ れた学部運営委員2名をもって構成する。 3 学部運営委員は学部長を補佐する。 4 学部運営委員の任期は2年とし、その始期は4月1日とする。ただし、補充の委員 の任期は前任者の残存期間とする。 5 学部運営委員は、毎年半数ずつ改選し、前任者を引き続き再選することは認めない。 6 学部長が必要と認めたときは、学部運営委員会に委員以外の者の出席を求め、その 意見を聞くことができる。

さらに、本学科の円滑な運営を図るために事務組織がこれを支援し、教務部では教
学面でサポートし事務を行い、学生部、教育学習支援センター、就職支援センター等
の各部署もまた各業務分掌に基づき、本学科の支援を行うことになっている。

サ 自己点検・評価

本学の自己点検・評価の体制及び主な内容（項目）は、以下のとおりである。
本学科においても、この自己点検・評価システムに組み入れて、教育研究活動の活性化とその水準の向上に努めることとする。

1 自己点検・評価の体制

本学の自己点検・評価の体制は、以下のとおりである。

- ① 本学では、平成3年10月に、学長を委員長とする「自己点検・評価実施委員会」の「全学委員会」を設置するとともに、各学部、大学院研究科、教務部、学生部、入試センター、就職支援センター等の学内機関、附属施設等にも、それぞれ「学部等委員会」を設置し、教育研究活動の活性化とその水準の向上に努めることにした。
- ② 全学委員会は、学部等委員会の審議を基に、教育研究活動の全学的な事項について点検・評価を行い、改善を要する事項及びその改善方法について関係機関に諮る等の必要な措置をとり、教育研究活動の改善向上を図ることになっている。
- ③ 自己点検・評価、改善策については、4年に1回を目途に報告書を作成し、公表することになっている。
- ④ 平成25年度には、前年度に行った自己点検・評価活動の報告書に基づき、本学の外部評価委員会（学外有識者5名で構成）を組織し、その評価も行った。
- ⑤ 学校教育法上定められた第三者評価については、平成20年3月及び平成27年3月に(財)大学基準協会の評価を得ている。

2 自己点検・評価の主な内容（項目）

本学の自己点検・評価の内容（項目）は、以下のとおりである。

- ① 建学の趣旨、教育理念に基づく、学部、学科、研究科等の目的の確認と見直し
- ② 学生受入の点検と見直し
- ③ カリキュラムの編成の点検と見直し
- ④ 教育指導体制の点検と見直し
- ⑤ 学生生活の充実の点検と見直し
- ⑥ 卒業生・修了生の進路の点検と見直し
- ⑦ 研究活動の点検と見直し

- ⑧ 図書館の活動状況の点検と見直し
- ⑨ 国際交流の点検と見直し
- ⑩ 社会との提携の点検と見直し
- ⑪ 教育研究施設の点検と見直し
- ⑫ 付置施設等の点検と見直し
- ⑬ その他

なお、自己点検・評価の結果は、報告書にまとめ関係各所に配付するほか、大学のホームページに掲載する等して公表している。

シ 情報の公表

1 公表の方針

本学の既存学部・学科、大学院の教育研究活動等に関する情報提供の状況をふまえ、本学科においても、以下のとおり情報の公表を行う。

- ① 授業内容の概要、履修計画の基礎的事項、論文の作成方法、講義概要等を記載した「学部要綱」を毎年発行し、オリエンテーション、あるいはガイダンスで説明する等、学生に適切な情報を提供する。
- ② 自己点検・評価の一環として発行している「教育研究活動改善検討委員会報告書」のなかで、全教員の教育研究活動状況の情報を公表する。
- ③ 研究成果発表のための「紀要」を毎年1回発行し公表する。
- ④ 地域スポーツに貢献することを意図し「公開講座の実施」や「各種スポーツ指導者」の派遣等を積極的に行う。
- ⑤ ホームページを活用し、教員の研究分野、研究業績や地域スポーツ振興実績、講演活動等の社会における活動、教育研究活動の全体的動向等を公表する。

2 主な項目の掲載について

(1) 大学の教育研究上の目的に関すること

- ・大学の目的、学部・学科の目的をホームページに掲載

http://www.rku.ac.jp/pdf/about/data/information/1_faculty.pdf

ホーム>大学情報>大学データ集・大学情報の公開

- ・大学院の各研究科の目的をホームページに掲載

http://www.rku.ac.jp/pdf/about/data/information/1_graduate.pdf

ホーム>大学情報>大学データ集>大学情報の公開

※上記は、まとめて「大学情報の公開」としてもホームページに掲載

<http://www.rku.ac.jp/about/data/information/>

ホーム>大学情報>大学データ集>大学情報の公開

(2) 教育研究上の基本組織に関すること

- ・学内組織図をホームページに掲載

<http://www.rku.ac.jp/about/data/organizations/>

ホーム>大学情報>学内組織図

- ・ 5学部8学科、5研究科の構成をホームページに掲載

<http://www.rku.ac.jp/faculty/>

ホーム>学部・大学院>

- ※上記は、まとめて「大学情報の公開」としてもホームページに掲載

<http://www.rku.ac.jp/about/data/information/>

ホーム>大学情報>大学データ集>大学情報の公開

(3) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

- ・ 教員一覧をホームページに掲載

<http://www.rku.ac.jp/faculty/professors>

ホーム>学部・大学院>全学部>教員一覧

- ・ 教員の数をホームページに掲載

<http://www.rku.ac.jp/about/data/professors/>

ホーム>大学情報>大学データ集>教員数

- ・ 各教員が有する学位及び業績をホームページ掲載

<http://www.rku.ac.jp/faculty/professors>

ホーム>学部・大学院>全学部>教員一覧

- ※上記は、まとめて「大学情報の公開」としてもホームページに掲載

<http://www.rku.ac.jp/about/data/information/>

ホーム>大学情報>大学データ集>大学情報の公開

(4) 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

- ・ 大学のアドミッションポリシーをホームページに掲載

http://www.rku.ac.jp/admissions/admission_policy/

ホーム>入試情報>アドミッションポリシー

- ・ 学部のアドミッションポリシーをホームページに掲載

http://www.rku.ac.jp/pdf/about/data/information/4_department.pdf

ホーム>大学情報>大学データ集>大学情報の公開

- ・ 大学院のアドミッションポリシーをホームページに掲載

http://www.rku.ac.jp/pdf/about/data/information/4_graduate.pdf

ホーム>大学情報>大学データ集>大学情報の公開

- ・ 入学者の数をホームページに掲載

<http://www.rku.ac.jp/about/data/students/>

ホーム>大学情報>大学データ集>学生に関する情報

- ・収容定員をホームページに掲載

<http://www.rku.ac.jp/admissions/tuition/>

ホーム>入試情報>定員・入学手続き納付金

- ・在学する学生の数、卒業又は修了した者の数をホームページに掲載

<http://www.rku.ac.jp/about/data/students/>

ホーム>大学情報>大学データ集>学生に関する情報

- ・進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況をホームページに掲載

http://www.rku.ac.jp/career/job_offer/

ホーム>キャリア・就職>進学及び就職の状況

※上記のうちアドミッションポリシーは、まとめて「大学情報の公開」としてもホームページに掲載

<http://www.rku.ac.jp/about/data/information/>

ホーム>大学情報>大学データ集>大学情報の公開

(5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

- ・学部のシラバスをホームページに掲載

<http://www.rku.ac.jp/faculty/syllabus/>

ホーム>学部・大学院>シラバス・履修要綱

- ・大学院の授業に関することをホームページに掲載

<http://www.rku.ac.jp/faculty/syllabus/>

ホーム>学部・大学院>各大学院研究科>関連リンク>シラバスほか

※上記は、まとめて「大学情報の公開」としてもホームページに掲載

<http://www.rku.ac.jp/about/data/information/>

ホーム>大学情報>大学データ集>大学情報の公開

(6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

- ・シラバス内にある成績の評価や卒業に必要な総単位数等をホームページに掲載

<http://www.rku.ac.jp/faculty/syllabus/>

ホーム>学部・大学院>シラバス・履修要綱

※上記は、まとめて「大学情報の公開」としてもホームページに掲載

<http://www.rku.ac.jp/about/data/information/>

ホーム>大学情報>大学データ集>大学情報の公開

(7) 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

- ・龍ヶ崎キャンパスについて、ホームページに掲載

<http://www.rku.ac.jp/campuslife/campus/ryu/>

ホーム>学びの環境>龍ヶ崎キャンパス

- ・新松戸キャンパスについて、ホームページに掲載

<http://www.rku.ac.jp/campuslife/campus/smc/>

ホーム>学びの環境>新松戸キャンパス

(8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

- ・入学手続納付金をホームページ掲載

<http://www.rku.ac.jp/admissions/tuition/>

ホーム>入試情報>定員・入学手続き納付金

※上記は、「大学情報の公開」としてもホームページに掲載

<http://www.rku.ac.jp/about/data/information/>

ホーム>大学情報>大学データ集>大学情報の公開

(9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

- ・学生の修学に関して、教育学習支援センターについてホームページに掲載

http://www.rku.ac.jp/campuslife/learning_support/

ホーム>学びの環境>教育学習支援センター

- ・進路選択等に関することをホームページに掲載

<http://www.rku.ac.jp/career/>

ホーム>キャリア・就職

- ・心身の健康に関して、学生相談室についてホームページに掲載

<http://www.rku.ac.jp/campuslife/>

ホーム>学びの環境>龍ヶ崎キャンパスまたは新松戸キャンパス>学生相談室

(10) その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果 等）

- ・教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報をホームページに掲載

<http://www.rku.ac.jp/about/data/learning/>

ホーム>大学情報>大学データ集

- ・自己点検・評価報告書をホームページに掲載

http://www.rku.ac.jp/pdf/about/data/inspect/jikotenken_2014.pdf

ホーム>大学情報>大学データ集>大学評価

- ・ 認証評価の結果をホームページに掲載

http://www.rku.ac.jp/pdf/about/data/inspect/juaa_2015.pdf

ホーム>大学情報>大学データ集>大学評価

ス 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学では、教育内容等の改善を図るうえで計画的かつ継続的なFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の推進が極めて重要との共通認識に立って、一人ひとりの教員が、「わかりやすい授業」を心掛けその方法を工夫し授業改善に努めるだけでなく、大学全体としてFD委員会を設置し、このことに関するさまざまな活動を展開し、教育の質向上に取り組んでいるところである。

新学科についても以下のような取組を行う。

- ① FDの理念と方法についての共通認識を持つ。
- ② 授業の予定と内容をわかりやすく記述したシラバス集を発行する。
- ③ 学生による授業評価を導入し、評価結果を生かした授業改善に努める。
- ④ FDに関する研修、フォーラム等へ積極的に参加し、情報収集、資質の向上に努める。
- ⑤ 教育機器、学術情報の活用を積極的に行う。
- ⑥ FDの改善、向上策に関するワーキンググループを設置する等、継続的に課題と取り組んでいく。
- ⑦ 教育学習支援センターを組織し、センター所属の専任職員と専任所員が学部教員とよく連携し、FDの企画を支援する。

セ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1 教育課程内の取組について

本学では、社会的・職業的自立に関する指導は大学4年間を通じて行うべきものとし、全学部全学科の教育課程に共通のキャリア科目を整備しており、新学科においても同様とする予定である。キャリア科目では、一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、基礎となる能力や態度を育てることを主眼に置き、「キャリア形成」(キャリアデザイン、キャリアマネジメント、キャリアカウンセリング等)、「社会・企業研究」(企業寄付講座、インターンシップ等)、「学科選定」(物流関係実践講座等)、「進路支援」(キャリア基礎、職業選択論等)の4分類の中に必要な科目を配置し、体系的に科目選択できるようにしている。

なお、上記取組については、各学部が後述する就職支援センターとよく連携して教育課程の作成にあたっている。また、若手の専任教員には、早期から教育課程内外のキャリア指導の重要性を理解し学生指導にあたってもらうことを意図し、別に組織するキャリア教育委員会のメンバーになってもらい各種の取組に参画してもらっている。

2 教育課程外の取組について

本学では、就職支援センターを設置し、センターを中心に全学的な体制で学生の社会的・職業的な自立をサポートしている。かつては、3・4年生を中心に就職活動を支援していたが、近年は、将来に備え、自立とキャリアデザインの重要性を早期に理解させるべく、教育課程外の取組においても低学年からの指導に力を入れている。

具体的には、新入生のRKU WEEK(新入生オリエンテーション)期間中に「大学生基礎力調査Ⅰ」を実施し、自身の基礎学力を把握することから始めている。さらにガイダンスでは、本学のキャリア担当教員がオリジナルで作成した『キャリアガイドブック』を新入生全員に配付し、4年後の進路決定と自立に備えるよう指導している。

また、1・2年生については、各種の就職準備講座を開講し、インターンシップ説明会、4年生内定者による就職活動体験発表会、講座「企業が求める人材像」、OB・OG座談会、女子学生ガイダンス、グループディスカッション講座等、低学年より大学から社会・職業への移行が考えられるようプログラムを提供している。

3年生は就職活動のための準備期間と位置づけ、冊子「RKU 就職ガイド」のほか、1年間を通じて開催する「年間就活支援プログラム」のリーフレットを作成し、これに沿って様々なプログラムを開催している。具体的には、学生の希望、能力・適性にマッチした職業に就けるよう、各種セミナー、企業情報、求人情報、インターネット情報等の提供、各種の模擬試験、OB・OG就職活動報告会、履歴書・エントリーシートの書き方、

自己分析方法等を支援している。

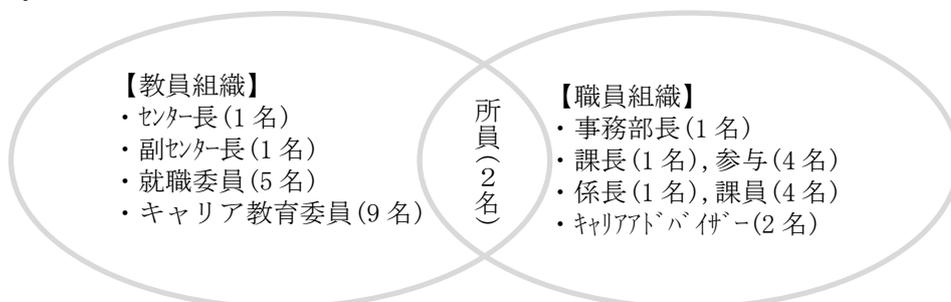
4年生については就職活動の実践の中で、個別相談を中心に模擬面接指導、履歴書・エントリーシートの添削指導、企業相談、悩み事相談等を実施している。個々の就職活動の進捗状況を把握し、適切なアドバイスを与えることが特に重要と考え、丁寧な対応に心掛けている。

3 適切な体制の整備について

就職支援センターでは、3・4年生のゼミ担当教員とよく連携して学生指導にあたっている。センター発行の「就職支援センターだより」では、昨今の就職・採用環境の実態を紹介し、学生の就職問題について理解を深めてもらい、教員の立場からの学生への適切な支援をお願いしている。

また、3年生を対象とする就職支援体制のひとつとしてゼミごとに「就職ゼミ長」を置くことにしている。センターからの連絡事項の伝達やゼミ間の就職関連情報の交換役を担ってもらうだけでなく、学生が主体的に就職支援活動に携わるなかで、モチベーションの向上やリーダーシップの醸成がなされることも期待している。就職活動において学生の自主性を活かすことが内定率の向上にも繋がっていると考え。

なお、就職支援センターは、教員と職員が協調して学生支援にあたるよう組織している。



上記のスタッフのうち、キャリア・アドバイザーは、勉学を含む学生生活のことや将来に向けたキャリア設計等について、会話しやすい雰囲気を作るなかで日常的に触れ合いながら、様々な角度からの学生サポートにあたっている。

また、上記スタッフのうち16名は、各学部からの教員により構成され、センターを中心に各学部との有機的な連携を図り、全学体制で学生支援に臨んでいる。学部のゼミ担当教員の要望により、センター職員がゼミ単位でキャリア・就職活動指導を行ったり、運動部のスタッフでもある学部教員の要望により、部活単位でも指導を行う等している。

上述のように就職支援センターの役割は大きく、学生の社会的・職業的自立に関する指導を行うために、教育課程の内外でセンターが中心となり学生指導のための体制を主導している。

設置の趣旨等を記載した書類に係る資料一覧（目次）

資料 1 : スポーツコミュニケーション学科の特色を示す概略図

資料 2 : スポーツコミュニケーション学科 教育課程表

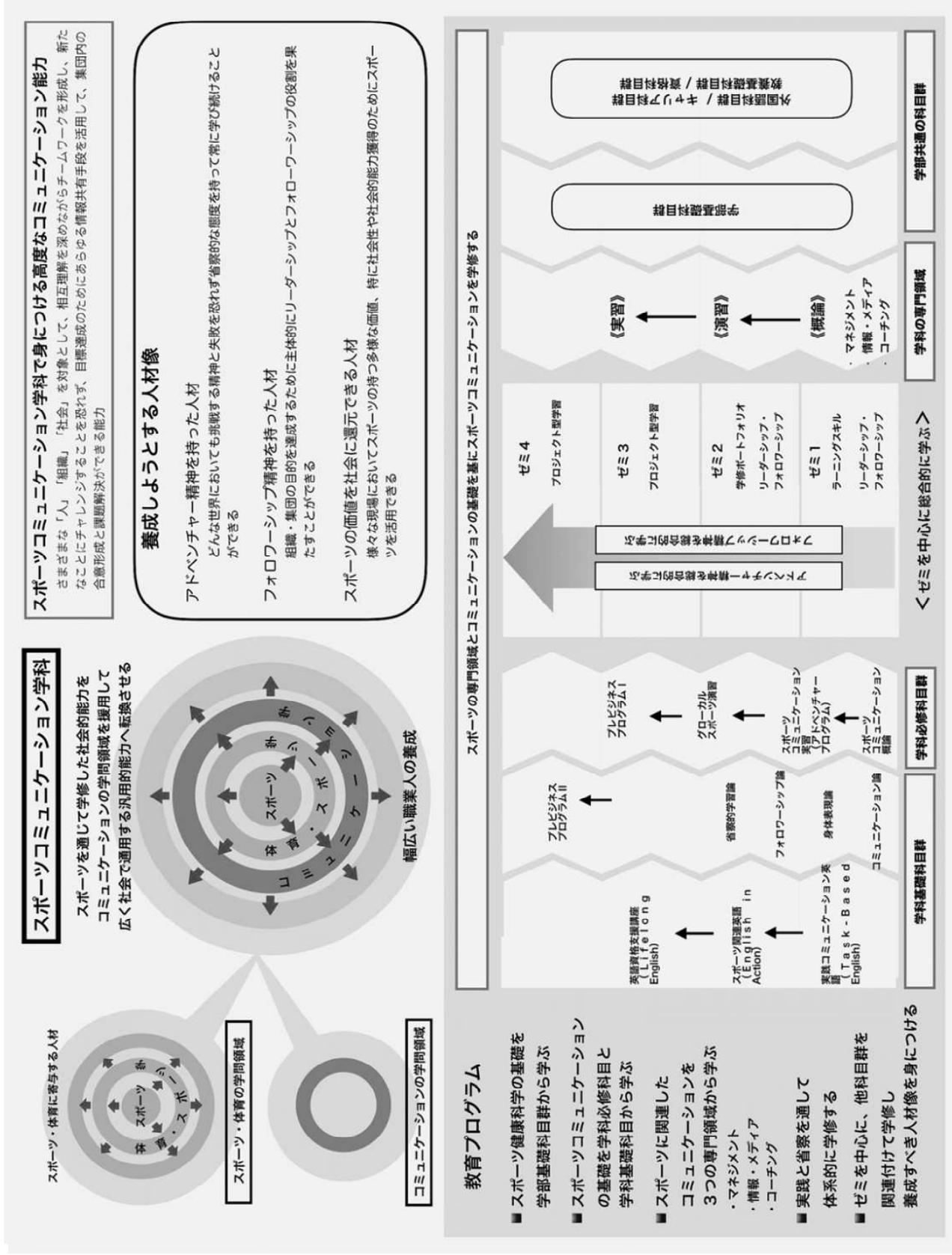
資料 3 : 履修モデル（14種類）

資料 4 : 実習（教育実習）施設一覧

資料 5 : 実習（学外実習）施設一覧

資料 6 : 実習（教育実習・学外実習）受入承諾書

資料 1 : スポーツコミュニケーション学科 概略図



スポーツコミュニケーション学科で身につける高度なコミュニケーション能力
 さまざまな「人」「組織」「社会」を対象として、相互理解を深めながらチームワークを形成し、新たなことにチャレンジすることを恐れず、目標達成のためにあらゆる情報共有手段を活用して、集団内の合意形成と課題解決ができる能力

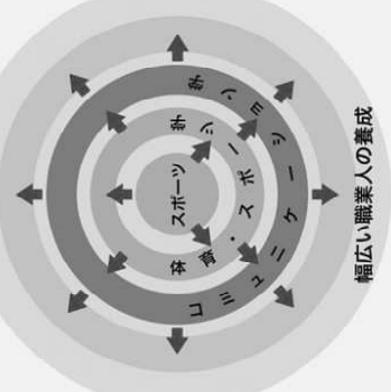
養成しようとする人材像

アドベンチャー精神を持った人材
 どんな世界においても挑戦する精神と失敗を恐れず奮闘的な態度を持って常に学び続けることができる

フォローアップ精神を持った人材
 組織・集団の目的を達成するために主体的にリーダーシップとフォローアップの役割を果たすことができる

スポーツの価値を社会に還元できる人材
 様々な現場においてスポーツの持つ多様な価値、特に社会性や社会的な能力獲得のためにスポーツを活用できる

スポーツコミュニケーション学科
 スポーツを通じて学修した社会的能力をコミュニケーションの学問領域を援用して広く社会で通用する汎用的能力へ転換させる

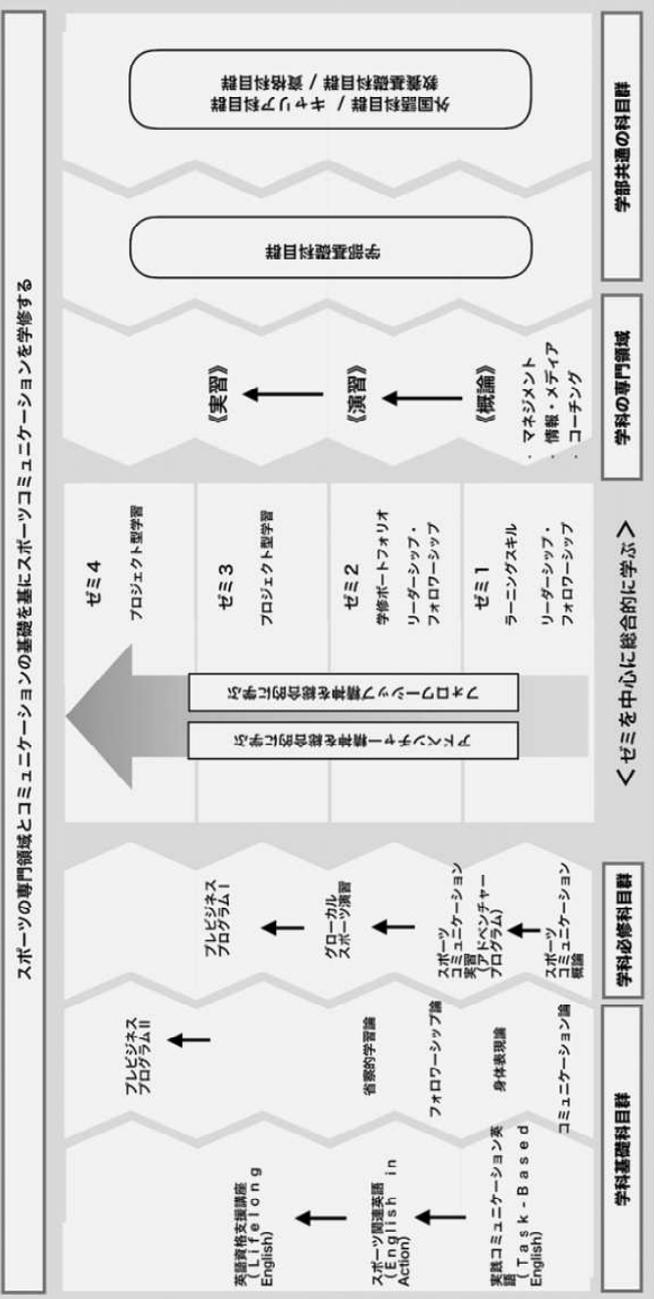


スポーツ・体育に寄与する人材

スポーツ・体育の学問領域

コミュニケーションの学問領域

- 教育プログラム**
- スポーツ健康科学の基礎を学部基礎科目群から学ぶ
 - スポーツコミュニケーションの基礎を学科必修科目と学科基礎科目から学ぶ
 - スポーツに関連したコミュニケーションを3つの専門領域から学ぶ
 - ・マネジメント
 - ・情報・メディア
 - ・コーチング
 - 実践と省察を通して体系的に学修する
 - ゼミを中心に、他科目群を関連付けて学修し養成すべき人材像を身につける



資料 2 :

2017年度入学生

スポーツコミュニケーション学科 入学年度別教育課程表

	1学年		2学年		3学年		4学年		概要		
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数			
必修科目	学部必修科目	1年演習(ゼミ) 4 情報基礎 I 2	2年演習(ゼミ) 4	3年演習(ゼミ) 4	4年演習(ゼミ) 4			16単位	必修科目30単位を履修しなければならない。		
	学科必修科目	スポーツ健康科学概論 2 スポーツコミュニケーション概論 各2 スポーツコミュニケーション実習(アドベンチャープログラム) 各2	海浜実習 2	グローバルスポーツ演習 2	テレビビジネスプログラム I 2			8単位			
	外国語(注1)	Comprehensive English初級 I・II 各1 Introduction to TOEIC I・II 各1 (外)日本語A I・A II 各1 (外)日本語B I・B II 各1	English Communication初級 I・II 各1	(外)日本語C I・C II 各1						6単位	英語6単位(外国人留学生は日本語6単位)を履修しなければならない。
	キャリア形成	RKU入門 1 キャリアデザイン 各2	RKU実践 1 キャリアマネジメント 各2	キャリアカウンセリング 2						2	6単位以上
社会・企業研究	海外研修 2	(特)キャリア特講(基礎) 2 (特)グローバルコミュニケーション(基礎) 1	(特)キャリア特講(発展) 2 (特)グローバルコミュニケーション(発展) 1	(特)キャリア特講(職業) 2					2		
	災害ボランティア I・II 各1	日本通運寄付講座 グロリアマーケティング実践講座	野村證券寄付講座	全国通運連盟寄付講座					各2		
	インターンシップ(海外) 2	インターンシップ基礎	インターンシップ							各2	
進路支援	キャリア基礎(数理) 各1 キャリア発展(数理) 各1	キャリア基礎(言語) 各1 キャリア発展(言語) 各1	職業選択論 2					2			
選択必修科目	言葉や思想に関する領域	哲学 I・II 各2 宗教学 I・II 各2 イスラム学 I・II 各2	教育学 I・II 各2 言語論 I・II 各2 (外)日本語表現法 各2	心理学 I・II 各2 現代文章論 I・II 各2					16単位以上	左記開講科目の中から88単位以上を履修しなければならない。(注2)	
	社会や健康に関する領域	社会学 I・II 各2 人文地理学 I・II 各2 外国文化論(西欧) I・II 各2 (外)日本事情 各2	経済学 I・II 各2 日本文化論 I・II 各2 現代女性論 I・II 各2	法学 I・II 各2 外国文化論(アジア) I・II 各2 社会倫理学 I・II 各2							
	自然や環境に関する領域	数学 I・II 各2 自然地理学 I・II 各2	地球科学 I・II 各2 生命科学 I・II 各2	生態学 I・II 各2							
	歴史や文学に関する領域	文学(日本文学) I・II 各2 歴史学入門(西洋史) I・II 各2 美術史 I・II 各2	歴史学入門(日本史) I・II 各2 民俗学 I・II 各2	歴史学入門(東洋史) I・II 各2 考古学 I・II 各2							
学科基礎科目	コミュニケーション論 各2 身体表現論 各2 実践コミュニケーション英語(Task-Based English) 2	省察的学习論 各2 フォロワーシップ論 各2	スポーツ関連英語(English in Action) 2	英語資格支援講座(Lifelong English) 2					6単位以上 2単位以上		
学部基礎科目	I	スポーツ心理学 各2 スポーツ社会学 各2 スポーツ政策論 各2 スポーツ教育学 各2	スポーツ救急理論・実習 I 各2 スポーツ哲学 各2 安全教育(学校安全を含む) 各2	スポーツ史 各2 スポーツ人類学 各2					20単位以上		
	II		スポーツ医学 各2 精神保健学 各2 学校保健学 各2 健康教育学 各2 スポーツ生理学 各2	スポーツバイオメカニクス 各2 機能解剖学 I 各2 スポーツ栄養学 I 各2							
	III	スポーツ運動学 各2 スポーツ技術・戦術論 各2	体カトレーニング論 各2 メンタルトレーニング論 各2	発育発達老化の理論・実習 各2 アダプテッド・スポーツ論 各2							
スポーツ実技科目	I	体づくり運動 各1 陸上競技 各1	器械運動 各1 水泳・水中運動 各1					2単位以上			
	II	バスケットボール 各1 ラグビー 各1	サッカー 各1 アメリカンフットボール 各1					2単位以上			
	III	野球・ソフトボール 各1 テニス 各1	バレーボール 各1 バドミントン 各1					2単位以上			
	IV	柔道 各1 ダンス 各1	剣道 各1 新体操 各1					1単位以上			

選択科目	学際的領域	社会調査法	2	社会心理学 障害者福祉論 国際社会学 開発社会学	グローバル化と文化 対人関係論 地域社会学	各2		
		経営学総論Ⅰ・Ⅱ	各2	事業創造論Ⅰ・Ⅱ 人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ	マーケティング論Ⅰ・Ⅱ 起業家育成講座Ⅰ・Ⅱ	各2		
		情報学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	通信・ネットワーク概論	情報応用システム論	各2		
				憲法Ⅰ・Ⅱ		各2		
	マネジメント領域	スポーツマネジメント概論	2	スポーツマネジメント演習 スポーツと地域開発 スポーツと国際協力	スポーツマネジメント実習	各2	2	プレビジネスプログラムⅡ
	情報・メディア領域	スポーツ情報・メディア概論	2	ジャーナリズム論・演習 スポーツ情報戦略・分析論	スポーツ・ジャーナリズム実習 スポーツ・インテリジェンス実習	各2	各2	
	コーチング領域	コーチング概論	2	コーチング演習 専門コーチング演習Ⅰ (子どもスポーツ) 専門コーチング演習Ⅱ (ボールゲーム) 専門コーチング演習Ⅲ (武道) 専門コーチング演習Ⅳ (表現系スポーツ)	コーチング実習		2	
	資格基礎科目	教育原理 教師論 教育社会学概論 教育心理学 エアロビック運動の理論	各2	教育相談 生徒指導論 保健体育科教育法Ⅰ 教育課程論 特別活動論 健康管理学 健康づくりと運動プログラム	教育方法学 保健体育科教育法Ⅱ	各2		
	外国語選択科目	選択初級ドイツ語Ⅰ・Ⅱ 選択初級スペイン語Ⅰ・Ⅱ		選択初級フランス語Ⅰ・Ⅱ 選択初級朝鮮(韓国)語Ⅰ・Ⅱ	選択初級中国語Ⅰ・Ⅱ 選択初級ポルトガル語・ブラジル語Ⅰ・Ⅱ			各1
				Comprehensive English中級Ⅰ・Ⅱ 資格英語Ⅰ・Ⅱ	English WritingⅠ・Ⅱ English ReadingⅠ・Ⅱ	メディア英語Ⅰ・Ⅱ (外)ビジネス日本語Ⅰ・Ⅱ		各1
卒業に必要な単位								124単位以上

自由科目	資格発展科目	教育史	2	道徳教育論 体育授業理論実習Ⅰ 学校教育現場実習	2 介護入門 2 教育実習(事前指導) 1 体育授業理論実習Ⅱ 1 体育授業理論実習Ⅲ	2 教職実践演習 1 教育実習(中学校) 2 教育実習(高等学校)	2 3 1
		トレーニング指導者健康運動指導士健康運動実践指導者	1	スポーツ外傷・障害と予防 ジョギング・ウォーキング	2 スポーツ救急理論・実習Ⅱ 2 健康産業施設等現場実習	2 1	
	測定評価理論・実習	2					
	トレーニング実習 コンディショニング理論・実習Ⅰ(基礎) エアロビックダンス	2 2 1					

合計	必修単位	16単位	10単位	6単位	4単位	36単位
	必修+選択必修単位					88単位
	卒業認定単位					124単位

(外) は外国人留学生の科目を示す。

(特) 印の科目は特別奨学生の特選科目でそれ以外の学生は受講できません。

(注1) 1学年、2学年を通じて同じ外国語を履修しなければならない。日本語を母語としない外国人留学生は、1学年で(外)日本語AⅠ・AⅡ、(外)日本語BⅠ・BⅡ、2学年で(外)日本語CⅠ・CⅡを履修しなければならない。

(注2) この欄の左列の単位数を合計すると、6単位以上+16単位以上+6単位以上+20単位以上+2単位以上+2単位以上+2単位以上+1単位以上=57単位以上となり、88単位以上にならない。不足分の31単位は、この欄の授業科目から自由に選択して履修すること。

資料 3 :

①-1 履修モデル(一般企業)

		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	摘要
学部必修科目		1 年演習 (ゼミ)	2 年演習 (ゼミ)	3 年演習 (ゼミ)	4 年演習 (ゼミ)	16 単位
		情報基礎 I				2 単位
		スポーツ健康科学概論	海浜実習			4 単位
学科必修科目		スポーツコミュニケーション概論 スポーツコミュニケーション実習 (アドベンチャープログラム)	グローバルスポーツ演習	プレビジネスプログラム I		8 単位
外国語		Comprehensive English 初級 I・II	English Communication 初級 I・II			6 単位
		Introduction to TOEIC I・II				
キャリア 科目	キャリア 形成	RKU 入門				6 単位以上
		キャリアデザイン	キャリアマネジメント インターンシップ基礎	インターンシップ		
教養 基礎 科目	言葉や思想に 関する領域	哲学 I 心理学 I				16 単位以上
	社会や健康に 関する領域		経済学 I 社会学 I			
	自然や環境に 関する領域			地球科学 I 生命科学 I		
	歴史や文学に 関する領域				文学 (日本文学) I 歴史学入門 (日本史) I	
選択 必修 科目	学科 基礎 科目	コミュニケーション論 身体表現論	フォロワーシップ論			6 単位以上
		実践コミュニケーション英語 (Task-Based English)	スポーツ関連英語 (English in Action)	英語資格支援講座 (Lifelong English)		2 単位以上
	I	スポーツ心理学 スポーツ社会学	スポーツ哲学			20 単位以上
II		スポーツ栄養学 I	健康教育学 スポーツ生理学	精神保健学		
III	スポーツ運動学	体力トレーニング論	メンタルトレーニング論			
スポ ーツ 実技 科目	I	体づくり運動 水泳・水中運動				2 単位以上
	II		アメリカンフットボール ラグビー			2 単位以上
	III			野球・ソフトボール テニス		2 単位以上
	IV				ダンス	1 単位以上
選択 科目	専門 発展 科目	学際的な領域		対人関係論	グローバル化と文化	
			情報学概論 I	通信ネットワーク概論	マーケティング論 I	
		マネジメント領 域		スポーツマネジメント演習 スポーツと地域開発	スポーツマネジメント実習	
	情報・メディア 領域	スポーツ情報・メディア概論	スポーツ地域社会論	スポーツ・ジャーナリズム実習		
合計		42 単位	38 単位	30 単位	15 単位	125 単位

①-2 履修モデル (教員)

		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	摘要	
学部必修科目		1 年演習 (ゼミ)	2 年演習 (ゼミ)	3 年演習 (ゼミ)	4 年演習 (ゼミ)	16 単位	
		情報基礎 I				2 単位	
		スポーツ健康科学概論	海浜実習			4 単位	
学科必修科目		スポーツコミュニケーション概論 スポーツコミュニケーション実習 (アドベンチャープログラム)	グローバルスポーツ演習	プレビジネスプログラム I		8 単位	
外国語		Comprehensive English 初級 I・II	English Communication 初級 I・II			6 単位	
		Introduction to TOEIC 1・II					
選択必修科目	キャリア ア科目	キャリア 形成	RKU 入門			6 単位以上	
				キャリアマネジメント			キャリアカウンセリング
	教養基 礎科目	言葉や思想に 関する領域	心理学 I 教育学 I				16 単位以上
		社会や健康に 関する領域		社会学 I 日本文化論 I			
		自然や環境に 関する領域			自然地理学 I 生命科学 I		
		歴史や文学に 関する領域				文学 (日本文学) I 歴史学入門 (日本史) I	
	学科基 礎科目	コミュニケーシ ョン領域	コミュニケーション論 身体表現論	省察的学習論 フォロワーシップ論			6 単位以上
			実践コミュニケーション英語 (Task-Based English)	スポーツ関連英語 (English in Action)			2 単位以上
	学部基 礎科目	I	スポーツ教育学	スポーツ救急理論・実習 I			20 単位以上
		II		衛生・公衆衛生学 (運動衛生学を含む)	スポーツバイオメカニクス 学校保健学 スポーツ生理学 精神保健学		
		III	スポーツ運動学	体力トレーニング論	メンタルトレーニング論		
	スポー ツ実技 科目	I	体づくり運動 水 泳	器械運動	陸上競技		2 単位以上
		II		サッカー	バスケットボール		2 単位以上
		III		バレーボール	野球・ソフトボール		2 単位以上
IV				ダンス 柔道		1 単位以上	
専門 発展 科目	学際的な領域	憲法 I			障害者福祉論		
		マネジメント 領域		スポーツマネジメント演習			
	資格基礎科目	教育原理 教師論 教育社会学概論 教育心理学	教育相談 生徒指導論 保健体育科教育法 I 教育課程論 特別活動論	教育方法学 保健体育科教育法 II			
自由 科目	資格発 展科目	教員免許発展 科目	教育史	道徳教育論 体育授業理論実習 I 学校教育現場実習	介護入門 (選択) 教育実習 (事前指導) 体育授業理論実習 II 体育授業理論実習 III	教職実践演習 教育実習 (中学校) 教育実習 (高等学校)	
合計		44 単位 (自由科目 2 単位)	43 単位 (自由科目 6 単位)	29 単位 (自由科目 7 単位)	10 単位 (自由科目 3~5 単位)	126 単位	

①-3 履修モデル (消防士)

		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	摘要
学部必修科目		1 年演習 (ゼミ)	2 年演習 (ゼミ)	3 年演習 (ゼミ)	4 年演習 (ゼミ)	16 単位
		情報基礎 I				2 単位
		スポーツ健康科学概論	海浜実習			4 単位
学科必修科目		スポーツコミュニケーション概論 スポーツコミュニケーション実習 (アドバンチャープログラム)	グローバルスポーツ演習	プレビジネスプログラム I		8 単位
外国語		Comprehensive English 初級 I・II	English Communication 初級 I・II			6 単位
		Introduction to TOEIC I・II				
キャリア科目	キャリア形成	RKU 入門				6 単位以上
	社会・企業研究	災害ボランティア I・II	キャリアマネジメント			
教養基礎科目	言葉や思想に関する領域	現代文章論 I メディア論 I				16 単位以上
	社会や健康に関する領域		法学 I 防災科学 I			
	自然や環境に関する領域			生態学 I 生命科学 I		
	歴史や文学に関する領域				歴史学入門 (東洋史) I 歴史学入門 (日本史) I	
学科基礎科目	コミュニケーション領域	コミュニケーション論	省察的学習論 フォロワーシップ論			6 単位以上
		実践コミュニケーション英語	スポーツ関連英語	英語資格支援講座		2 単位以上
学部基礎科目	I	スポーツ心理学 スポーツ社会学 スポーツ政策論	スポーツ救急理論・実習 I 安全教育(学校安全を含む)			20 単位以上
	II		衛生・公衆衛生学(運動衛生学を含む)	健康教育学	精神保健学	
	III		体力トレーニング論	発育発達老化の理論・実習		
スポーツ実技科目	I	体づくり運動 陸上競技				2 単位以上
	II		バスケットボール サッカー			2 単位以上
	III			野球・ソフトボール バレーボール		2 単位以上
	IV				柔道	1 単位以上
専門発展科目	学際的な領域			グローバル化と文化 開発社会学	障害者福祉論 対人関係論 地域社会学	
			人的資源管理論 I・II			
				情報応用システム論		
	マネジメント領域	スポーツマネジメント概論	スポーツと地域開発	スポーツマネジメント実習		プレビジネスプログラム II
情報・メディア領域	スポーツ情報・メディア概論	スポーツ地域社会学論				
自由発展科目				スポーツ救急理論・実習 II		
合計		42 単位	42 単位	24 単位 (自由科目 2 単位)	19 単位	127 単位

①-4 履修モデル (警察官)

		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	摘要	
学部必修科目		1 年演習 (ゼミ)	2 年演習 (ゼミ)	3 年演習 (ゼミ)	4 年演習 (ゼミ)	16 単位	
		情報基礎 I				2 単位	
		スポーツ健康科学概論	海浜実習			4 単位	
学科必修科目		スポーツコミュニケーション概論 スポーツコミュニケーション実習 (アドベンチャープログラム)	グローバルスポーツ演習	プレビジネスプログラム I		8 単位	
外国語		Comprehensive English 初級 I・II	English Communication 初級 I・II			6 単位	
		Introduction to TOEIC I・II					
選択必修科目	キャリア 科目	キャリア 形成	RKU 入門				6 単位以上
			キャリアデザイン	キャリアマネジメント			
	教養 基礎 科目	言葉や思想に 関する領域 社会や健康に 関する領域 自然や環境に 関する領域 歴史や文学に 関する領域	哲学 I 心理学 I				16 単位以上
				法学 I 社会倫理学 I	現代女性論 I 日本文化論 I		
						生命科学 I	
						民俗学 I	
	学科 基礎 科目	コミュニケーショ ン領域	コミュニケーション論	省察的学習論 フォローシップ論			6 単位以上
			実践コミュニケーション英語 (Task-Based English)				2 単位以上
	学部 基礎 科目	I II III	スポーツ教育学 スポーツ社会学	スポーツ救急理論・実習 I 安全教育 (学校安全を含む)			20 単位以上
				衛生・公衆衛生学 (運動衛生学を含む)	健康教育学	精神保健学	
			スポーツ運動学	体力トレーニング論	発育発達老化の理論・実習		
	スポ ーツ 実技 科目	I II III IV	体づくり運動 水泳・水中運動				2 単位以上
				バスケットボール サッカー			2 単位以上
					野球・ソフトボール バレーボール		2 単位以上
					柔道 剣道	1 単位以上	
専門 発展 科目	学際的な領域 マネジメント領 域		対人関係論	地域社会学			
		情報学概論 I・II	通信ネットワーク概論				
			憲法 I・II				
資格 発展 科目		スポーツマネジメント概論	スポーツと地域開発 スポーツと国際協力		プレビジネスプログラム II		
合計		42 単位	42 単位	20 単位	14 単位	118 単位	

①-5 履修モデル (自衛官)

		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	摘要	
学部必修科目		1 年演習 (ゼミ)	2 年演習 (ゼミ)	3 年演習 (ゼミ)	4 年演習 (ゼミ)	16 単位	
		情報基礎 I				2 単位	
		スポーツ健康科学概論	海浜実習			4 単位	
学科必修科目		スポーツコミュニケーション概論 スポーツコミュニケーション実習 (アドベンチャープログラム)	グローバルスポーツ演習	プレビジネスプログラム I		8 単位	
外国語		Comprehensive English 初級 I・II	English Communication 初級 I・II			6 単位	
		Introduction to TOEIC I・II					
選択必修科目	キャリア科目	キャリア形成	RKU 入門 キャリアデザイン	キャリアマネジメント		6 単位以上	
	教養基礎科目	言葉や思想に関する領域	現代文章論 I 心理学 I				16 単位以上
		社会や健康に関する領域		法学 I 外国文化論 (アジア) I	外国文化論 (西欧) I		
		自然や環境に関する領域			地球科学 I	生命科学 I	
		歴史や文学に関する領域				歴史学入門 (日本史) I 歴史学入門 (東洋史) I	
	学科基礎科目	コミュニケーション領域	コミュニケーション論	省察的学習論 フォローシップ論			6 単位以上
			実践コミュニケーション英語 (Task-Based English)	スポーツ関連英語 (English in Action)			2 単位以上
	学部基礎科目	I	スポーツ心理学 スポーツ社会学 スポーツ教育学	スポーツ救急理論・実習 I 安全教育 (学校安全を含む)			20 単位以上
		II		衛生・公衆衛生学 (運動衛生学を含む) スポーツ医学	健康教育学	精神保健学	
		III	スポーツ運動学	体力トレーニング論			
	スポーツ実技科目	I	陸上競技 水泳・水中運動				2 単位以上
		II		アメリカンフットボール ラグビー			2 単位以上
		III			野球・ソフトボール バレーボール		2 単位以上
		IV				柔道 剣道	1 単位以上
	専門発展科目	学際的な領域		グローバル化と文化	地域社会学 開発社会学	国際社会学	
			情報学概論 I	通信ネットワーク概論			
マネジメント領域		スポーツマネジメント論	憲法 I スポーツと国際協力				
資格発展科目				スポーツ救急理論・実習 II			
合計		42 単位	42 単位	20 単位	16 単位	120 単位	

②-1 履修モデル (コーチ、指導者)

		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	摘要	
学部必修科目		1 年演習 (ゼミ)	2 年演習 (ゼミ)	3 年演習 (ゼミ)	4 年演習 (ゼミ)	16 単位	
		情報基礎 I				2 単位	
		スポーツ健康科学概論	海浜実習			4 単位	
学科必修科目		スポーツコミュニケーション概論 スポーツコミュニケーション実習 (アドベンチャープログラム)	グローバルスポーツ演習	プレビジネスプログラム I		8 単位	
外国語		Comprehensive English 初級 I・II	English Communication 初級 I・II			6 単位	
		Introduction to TOEIC I・II					
選択必修科目	科 目	キャリア形成	RKU 入門	RKU 実践	海外研修	6 単位 以上	
		言葉や思想に 関する領域			心理学 I・II 宗教学 I・II	16 単位 以上	
		社会や健康に 関する領域			外国文化論 (アジア) I・II 外国文化論 (西欧) I・II		
	学 科 基 礎 科 目	コミュニケーション 領域	コミュニケーション論	省察的学習論			6 単位 以上
			身体表現論	フォローアップ論			2 単位 以上
	学 部 基 礎 科 目	I	実践コミュニケーション英語 (Task-Based English)	スポーツ関連英語 (English in Action)			20 単位 以上
			スポーツ心理学 スポーツ社会学 スポーツ政策論	スポーツ哲学 安全教育(学校安全を含む)	スポーツ史 衛生・公衆衛生学(運動衛生学を含む)		
			II	スポーツ医学 機能解剖学 I	スポーツ生理学		
	ス ポ ー ツ 実 技 科 目	III	体づくり運動 水泳・水中運動				2 単位 以上
			IV	サッカー ラグビー			2 単位 以上
			V	テニス 卓球			2 単位 以上
			VI	剣道			1 単位 以上
	選 択 科 目	専 門 発 展 科 目	学際的な領域	対人関係論	グローバル化と文化	プレビジネスプログラム II	
			マネジメント領域	スポーツマネジメント概論	スポーツマネジメント演習 スポーツと地域開発 スポーツと国際協力		
情報・メディア領域			スポーツ情報・メディア概論	ジャーナリズム論・演習 スポーツ情報戦略・分析論			
資格発 展科目		(トレーニング指 導者、 健康運動指導士、 健康運動実践指導 者)			スポーツ外傷・障害と予防 トレーニング実習 コンディショニング理論・実習 I		
合計		43 単位	44 単位	28 単位 (自由科目 6 単位)	14 単位	129 単位	

②-2 履修モデル (事務・広報担当)

		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	概要	
学部必修科目		1 年演習 (ゼミ)	2 年演習 (ゼミ)	3 年演習 (ゼミ)	4 年演習 (ゼミ)	16 単位	
		情報基礎 I				2 単位	
		スポーツ健康科学概論	海浜実習			4 単位	
	学科必修科目	スポーツコミュニケーション概論 スポーツコミュニケーション実習 (アドベンチャープログラム)	グローバルスポーツ演習	プレビジネスプログラム I		8 単位	
外国語		Comprehensive English 初級 I・II	English Communication 初級 I・II			6 単位	
		Introduction to TOEIC I・II					
選択必修科目	リァ	キャリア形成	RKU 入門	RKU 実践	インターンシップ(海外)	6 単位以上	
		言葉や思想に関する領域			現代文章論 I・II		16 単位以上
		社会や健康に関する領域			外国文化論 (西欧) I 外国文化論 (アジア) I	社会学 I 経済学 I	
		自然や環境に関する領域			自然環境論 I		
		歴史や文学に関する領域			歴史学入門 (西洋史) I		
	学科基礎科目	コミュニケーション領域	コミュニケーション論 身体表現論	省察的学習論 フォロワーシップ論			6 単位以上
			実践コミュニケーション英語 (Task-Based English)	スポーツ関連英語 (English in Action)			2 単位以上
	学部基礎科目	I	スポーツ心理学 スポーツ社会学 スポーツ政策論	スポーツ救急理論・実習 I	スポーツ哲学		20 単位以上
		II		スポーツ史 安全教育(学校安全を含む) スポーツ生理学 スポーツ人類学	衛生・公衆衛生学(運動衛生学を含む)		
	スポーツ実技科目	I	体づくり運動 水泳・水中運動				2 単位以上
		II	ラグビー アメリカンフットボール				2 単位以上
		III	バドミントン 卓球				2 単位以上
		IV	剣道				1 単位以上
	専門発展科目	学際的な領域	情報学概論 I	通信ネットワーク概論	グローバル化と文化 対人関係論		プレビジネスプログラム II
マネジメント領域		スポーツマネジメント概論	スポーツマネジメント演習 スポーツと地域開発	スポーツマネジメント実習			
情報・メディア領域		スポーツ情報・メディア概論	ジャーナリズム論・演習 スポーツ情報戦略・分析論	スポーツ・ジャーナリズム実習			
コーチング領域			コーチング演習				
	外国語選択科目			English Communication I・II			
合計		43 単位	40 単位	24 単位	10 単位	117 単位	

②-3 履修モデル (チームアナリスト)

		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	摘要	
学部必修科目		1 年演習 (ゼミ)	2 年演習 (ゼミ)	3 年演習 (ゼミ)	4 年演習 (ゼミ)	16 単位	
		情報基礎 I				2 単位	
		スポーツ健康科学概論	海浜実習			4 単位	
学科必修科目		スポーツコミュニケーション概論 スポーツコミュニケーション実習 (アドベンチャープログラム)	グローバルスポーツ演習	プレビジネスプログラム I		8 単位	
外国語		Comprehensive English 初級 I・II	English Communication 初級 I・II			6 単位	
		Introduction to TOEIC I・II					
選択必修科目	キャリア形成	RKU 入門	RKU 実践	海外研修		6 単位以上	
	言葉や思想に関する領域	教育学 I			心理学 I・II 言語論 I 現代文章論 I		16 単位以上
		社会や健康に関する領域			外国文化論 (西欧) I		
		自然や環境に関する領域			数学 I		
		歴史や文学に関する領域			文学 (外国文学) I		
	コミュニケーション領域	コミュニケーション論	省察的学習論 フォロワーシップ論				6 単位以上
		実践コミュニケーション英語 (Task-Based English)	スポーツ関連英語 (English in Action)	英語資格支援講座 (Lifelong English)			2 単位以上
	学部基礎科目	I		スポーツ救急理論・実習 I			20 単位以上
		II		スポーツ医学 機能解剖学 I	スポーツバイオメカニクス スポーツ生理学 スポーツ栄養学 I		
		III	スポーツ運動学 スポーツ技術・戦術論	体力トレーニング論 メンタルトレーニング論			
	スポーツ実技科目	I			器械運動 陸上競技		2 単位以上
		II			バスケットボール サッカー		2 単位以上
		III			野球・ソフトボール バレーボール		2 単位以上
		IV			柔道		1 単位以上
	専門発展科目	学際的な領域	社会調査法 情報学概論 I・II	通信ネットワーク概論 情報応用システム論			プレビジネスプログラム II
		マネジメント領域	スポーツマネジメント概論	スポーツマネジメント演習			
情報・メディア領域		スポーツ情報・メディア概論	スポーツ情報戦略・分析論	スポーツ・インテリジェンス実習			
コーチング領域		コーチング概論	コーチング演習 競技別コーチング演習 I (子どもスポーツ) 競技別コーチング演習 II (ボールゲーム) 競技別コーチング演習 III (武道)				
資格発展科目	(トレーニング指導者、 健康運動指導士、 健康運動実践指導者)			測定評価理論・実習			
合計		40 単位	44 単位	39 単位 (自由科目 2 単位)	6 単位	129 単位	

②-4 履修モデル（事務・総務担当）

		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	摘要	
学部必修科目		1 年演習（ゼミ）	2 年演習（ゼミ）	3 年演習（ゼミ）	4 年演習（ゼミ）	16 単位	
		情報基礎 I				2 単位	
		スポーツ健康科学概論	海浜実習			4 単位	
学科必修科目		スポーツコミュニケーション概論 スポーツコミュニケーション実習 (アドベンチャープログラム)	グローバルスポーツ演習	プレビジネスプログラム I		8 単位	
外国語		Comprehensive English 初級 I・II Introduction to TOEIC I・II	English Communication 初級 I・II			6 単位	
選択必修科目	リア	キャリア形成	RKU 入門	RKU 実践	海外研修	6 単位以上	
		言葉や思想に関する領域			心理学 I・II	16 単位以上	
		社会や健康に関する領域			外国文化論（西欧）I・II 外国文化論（アジア）I・II		
	学科基礎科目	コミュニケーション領域	コミュニケーション論	省察的学習論 フォローシップ論			6 単位以上
			実践コミュニケーション英語 (Task-Based English)	スポーツ関連英語 (English in Action)	英語資格支援講座 (Lifelong English)		2 単位以上
	学部基礎科目	I	スポーツ心理学 スポーツ社会学 スポーツ政策論	スポーツ救急理論・実習 I			20 単位以上
		II		スポーツ史 安全教育(学校安全を含む) スポーツ生理学 スポーツ人類学	衛生・公衆衛生学(運動衛生学を含む) スポーツ哲学		
	スポーツ実技科目	I	体づくり運動 水泳・水中運動				2 単位以上
		II	ラグビー				2 単位以上
		III	バドミントン 卓球				2 単位以上
		IV	剣道				1 単位以上
	選択科目	専門発展科目	学際的な領域	経営学総論 I	対人関係論 人的資源管理論 I	グローバル化と文化 社会心理学	プレビジネスプログラム II
マネジメント領域			スポーツマネジメント概論	スポーツマネジメント演習 スポーツと地域開発 スポーツと国際協力	スポーツマネジメント実習		
情報・メディア領域			スポーツ情報・メディア概論	スポーツ表象論 スポーツ地域社会論			
コーチング領域				コーチング演習			
外国語選択科目				English Communication I・II			
合計		43 単位	44 単位	24 単位	8 単位	119 単位	

③-1 履修モデル (イベント関係)

		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	摘要	
学部必修科目		1 年演習 (ゼミ)	2 年演習 (ゼミ)	3 年演習 (ゼミ)	4 年演習 (ゼミ)	16 単位	
		情報基礎 I				2 単位	
		スポーツ健康科学概論	海浜実習			4 単位	
学科必修科目		スポーツコミュニケーション概論 スポーツコミュニケーション実習 (アドベンチャープログラム)	グローバルスポーツ演習	プレビジネスプログラム I		8 単位	
外国語		Comprehensive English 初級 I・II	English Communication 初級 I・II			6 単位	
		Introduction to TOEIC I・II					
選択必修科目	キャリア科目	キャリア形成	RKU 入門	RKU 実践		6 単位以上	
		社会・企業研究		インターンシップ基礎	インターンシップ		
	教養基礎科目	言葉や思想に関する領域			心理学 I・II		16 単位以上
		社会や健康に関する領域		経済学 I・II			
		自然や環境に関する領域				数学 I・II	
		歴史や文学に関する領域		民俗学 I・II			
	学科基礎科目	コミュニケーション領域	コミュニケーション論	省察的学習論 フォローアップ論			6 単位以上
			実践コミュニケーション英語 (Task-Based English)	スポーツ関連英語 (English in Action)			2 単位以上
	学部基礎科目	I	スポーツ心理学 スポーツ政策論	スポーツ救急理論・実習 I スポーツ人類学	スポーツ史		20 単位以上
		II			健康教育学 スポーツ生理学		
		III	スポーツ運動学		発育発達老化の理論・実習 アダプテッド・スポーツ論		
	スポーツ実技科目	I	体づくり運動 水泳・水中運動				2 単位以上
		II	バスケットボール ラグビー				2 単位以上
		III	野球・ソフトボール 卓球				2 単位以上
		IV	剣道				1 単位以上
	専門発展科目	学際的な領域	社会調査法				プレビジネスプログラム II
経営学総論 I			人的資源管理論 I	マーケティング論 I・II			
マネジメント領域		スポーツマネジメント概論	スポーツマネジメント演習 スポーツと地域開発 スポーツと国際協力	スポーツマネジメント実習			
情報・メディア領域	スポーツ情報・メディア概論	ジャーナリズム論・演習					
合計		43 単位	42 単位	28 単位	10 単位	123 単位	

③-2 履修モデル (メディア関係)

		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	摘要	
学部必修科目		1 年演習 (ゼミ)	2 年演習 (ゼミ)	3 年演習 (ゼミ)	4 年演習 (ゼミ)	16 単位	
		情報基礎 I				2 単位	
		スポーツ健康科学概論	海浜実習			4 単位	
	学科必修科目	スポーツコミュニケーション概論 スポーツコミュニケーション実習 (アドベンチャープログラム)	グローバルスポーツ演習	プレビジネスプログラム I		8 単位	
外国語		Comprehensive English 初級 I・II	English Communication 初級 I・II			6 単位	
		Introduction to TOEIC I・II					
選択必修科目	キャリア ア科目	キャリア形成	RKU 入門	RKU 実践		6 単位以上	
		社会・企業研究		インターンシップ基礎	インターンシップ		
	教養基 礎科目	言葉や思想に 関する領域			現代文章論 I・II		16 単位以上
		社会や健康に 関する領域			社会倫理学 I・II		
		自然や環境に 関する領域				自然地理学 I・II	
		歴史や文学に 関する領域			民俗学 I・II		
	学科基 礎科目	コミュニケーション 領域	コミュニケーション論 実践コミュニケーション英語 (Task-Based English)	省察的学習論 スポーツ関連英語 (English in Action)			6 単位以上
							2 単位以上
	学部基 礎科目	I	スポーツ社会学 スポーツ政策論	スポーツ哲学 スポーツ人類学	スポーツ史		20 単位以上
		II		スポーツ栄養学 I	健康教育学 スポーツ生理学		
		III			発育発達老化の理論・実習 アダプテッド・スポーツ論		
	スポー ツ実技 科目	I	体づくり運動 水泳・水中運動				2 単位以上
		II	バスケットボール ラグビー				2 単位以上
		III			野球・ソフトボール 卓球		2 単位以上
		IV				剣道	1 単位以上
	選択 科目	学際的な領域	社会調査法	地域社会学	国際社会学		
情報学概論 I・II							
マネジメント 領域		スポーツマネジメント概論	憲法 I				
		スポーツマネジメント演習 スポーツと地域開発 スポーツと国際協力			プレビジネスプログラム II		
情報・メディ ア領域	スポーツ情報・メディア概論	ジャーナリズム論・演習 スポーツ情報戦略・分析論	スポーツ・ジャーナリズム実 習				
合計		40 単位	38 単位	36 単位	11 単位	125 単位	

③-3 履修モデル (スポーツ用品)

		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	摘要	
学部必修科目		1 年演習 (ゼミ)	2 年演習 (ゼミ)	3 年演習 (ゼミ)	4 年演習 (ゼミ)	16 単位	
		情報基礎 I				2 単位	
		スポーツ健康科学概論	海浜実習			4 単位	
学科必修科目		スポーツコミュニケーション概論 スポーツコミュニケーション実習 (アドベンチャープログラム)	グローバルスポーツ演習	プレビジネスプログラム I		8 単位	
外国語		Comprehensive English 初級 I・II	English Communication 初級 I・II			6 単位	
		Introduction to TOEIC I・II					
選択必修科目	キャリア ア科目	キャリア形成 社会・企業研究	RKU 入門 RKU 実践			6 単位以上	
	教養基 礎科目	言葉や思想に 関する領域			インターンシップ 心理学 I・II		16 単位以上
		社会や健康に 関する領域		経済学 I・II			
		自然や環境に 関する領域	数学 I・II				
		歴史や文学に 関する領域	歴史学入門 (西洋史) I・II				
	学科基 礎科目	コミュニケーション 領域	コミュニケーション論 身体表現論 実践コミュニケーション英語 (Task-Based English)	フォロワーシップ論 スポーツ関連英語 (English in Action)	英語資格支援講座 (Lifelong English)		6 単位以上 2 単位以上
		I	スポーツ政策論	スポーツ救急理論・実習 I	スポーツ史		
	学部基 礎科目	II		スポーツ医学 スポーツ栄養学 I	スポーツバイオメカニクス スポーツ生理学		20 単位以上
		III		体力トレーニング論	発育発達老化の理論・実習 アダプテッド・スポーツ論		
		IV					
	スポー ツ実技 科目	I	陸上競技	水泳・水中運動			2 単位以上
		II		バスケットボール	アメリカンフットボール		2 単位以上
		III			野球・ソフトボール テニス		2 単位以上
		IV				剣道	1 単位以上
選択 科目	学際的な領域	社会調査法 経営学総論 I			マーケティング論 I・II		
		マネジメント 領域		スポーツマネジメント演習 スポーツと地域開発 スポーツと国際協力	スポーツマネジメント実習		
	情報・メディ ア領域				プレビジネスプログラム II		
	コーチング領 域	コーチング概論	コーチング演習				
合計		43 単位	40 単位	34 単位	7 単位	124 単位	

④-1 履修モデル (国際競技スポーツ)

		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	摘要
学部必修科目		1 年演習 (ゼミ)	2 年演習 (ゼミ)	3 年演習 (ゼミ)	4 年演習 (ゼミ)	16 単位
		情報基礎 I				2 単位
		スポーツ健康科学概論	海浜実習			4 単位
学科必修科目		スポーツコミュニケーション概論 スポーツコミュニケーション実習 (アドベンチャープログラム)	グローバルスポーツ演習	プレビジネスプログラム I		8 単位
外国語		Comprehensive English 初級 I・II	English Communication 初級 I・II			6 単位
		Introduction to TOEIC I・II				
キャリア ア科目	キャリア形成	RKU 入門	RKU 実践			6 単位以上
	社会・企業研究	インターンシップ (海外)				
教養基 礎科目	言葉や思想に 関する領域			心理学 I・II		16 単位以上
	社会や健康に 関する領域			法学 I・II		
	自然や環境に 関する領域				地球科学 I・II	
	歴史や文学に 関する領域	歴史学入門 (西洋史) I・II				
学科基 礎科目	コミュニケーシ ョン領域	コミュニケーション論 身体表現論	省察的学習論			6 単位以上
		実践コミュニケーション英語 (Task-Based English)	スポーツ関連英語 (English in Action)	英語資格支援講座 (Lifelong English)		2 単位以上
学部基 礎科目	I	スポーツ心理学 スポーツ政策論	スポーツ救急理論・実習 I スポーツ哲学 スポーツ人類学	スポーツ史		20 単位以上
	II		スポーツ医学 機能解剖学 I スポーツ栄養学 I	スポーツバイオメカニクス スポーツ生理学		
	III	スポーツ運動学 スポーツ技術・戦術論	体力トレーニング論	メンタルトレーニング論		
スポー ツ実技 科目	I	陸上競技 水泳・水中運動				2 単位以上
	II		バスケットボール ラグビー			2 単位以上
	III			野球・ソフトボール テニス		2 単位以上
	IV			ダンス		1 単位以上
	マネジメント 領域		スポーツマネジメント演習 スポーツと国際協力			
	情報・メディ ア領域	スポーツ情報・メディア概論	スポーツ情報戦略・分析論			
	コーチング領 域	コーチング概論	コーチング演習 専門コーチング演習 (1 科目)	コーチング実習		
合計		44 単位	42 単位	29 単位	8 単位	123 単位

④-2 履修モデル (国際開発協力)

		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	摘要
学部必修科目		1 年演習 (ゼミ)	2 年演習 (ゼミ)	3 年演習 (ゼミ)	4 年演習 (ゼミ)	16 単位
		情報基礎 I				2 単位
		スポーツ健康科学概論	海浜実習			4 単位
学科必修科目		スポーツコミュニケーション概論 スポーツコミュニケーション実習 (アドベンチャープログラム)	グローバルスポーツ演習	プレビジネスプログラム I		8 単位
外国語		Comprehensive English 初級 I・II	English Communication 初級 I・II			6 単位
		Introduction to TOEIC I・II				
キャリア ア科目	キャリア 形成	RKU 入門	RKU 実践			6 単位以上
		インターンシップ (海外)				
教養基 礎科目	言葉や思想に 関する領域				宗教学 I・II	16 単位以上
	社会や健康に 関する領域	社会学 I・II		法学 I・II		
	自然や環境に 関する領域				地球科学 I・II	
	歴史や文学に 関する領域				歴史学入門 (東洋史) I・II	
学科基 礎科目	コミュニケーション 領域	コミュニケーション論	省察的学習論 フォローアップ論			6 単位以上
		実践コミュニケーション英語 (Task-Based English)	スポーツ関連英語 (English in Action)	英語資格支援講座 (Lifelong English)		2 単位以上
学部基 礎科目	I	スポーツ社会学 スポーツ政策論	スポーツ救急理論・実習 I スポーツ人類学 安全教育 (学校安全を含む)			20 単位以上
	II		スポーツ医学 衛生・公衆衛生学 (運動衛生学を含む)	健康教育学 スポーツ生理学		
	III	スポーツ運動学		発育発達老化の理論・実習		
スポー ツ実技 科目	I	陸上競技 水泳・水中運動				2 単位以上
	II		バスケットボール ラグビー			2 単位以上
	III			野球・ソフトボール バレーボール		2 単位以上
	IV				柔道	1 単位以上
専門 発展 科目	学際的な領域	社会調査法	地域社会学	国際社会学 開発社会学		
		経営学総論 I				
	マネジメント 領域	スポーツマネジメント概論	スポーツマネジメント演習 スポーツと地域 スポーツと国際協力	スポーツマネジメント実習		
コーチング領 域	コーチング概論	コーチング演習				
合計		44 単位	40 単位	26 単位	17 単位	127 単位

資料 4 - 1 :

実習（教育実習）施設一覧

	学校種	受け入れ可能な学校名	所在地	受け入れ可能人数
1	中学校	龍ヶ崎市立愛宕中学校	茨城県龍ヶ崎市 3777	当該年度の状況により適宜協議して決定する
2	中学校	龍ヶ崎市立城南中学校	茨城県龍ヶ崎市 1736	
3	中学校	龍ヶ崎市立長山中学校	茨城県龍ヶ崎市長山 3 丁目 1	
4	中学校	龍ヶ崎市立城西中学校	茨城県龍ヶ崎市川原代町 710	
5	中学校	龍ヶ崎市立中根台中学校	茨城県龍ヶ崎市中根台 1 丁目 12	
6	中学校	龍ヶ崎市立城ノ内中学校	茨城県龍ヶ崎市城ノ内 5 丁目 3	
7	高等学校	流通経済大学付属柏高等学校	千葉県柏市十余二 1-20	
8	高等学校	茨城県立竜ヶ崎第一高等学校	茨城県龍ヶ崎市平畑 248	
9	高等学校	茨城県立竜ヶ崎第二高等学校	茨城県龍ヶ崎市 3087	
10	高等学校	茨城県立藤代高等学校	茨城県取手市毛有 640	
11	高等学校	茨城県立藤代紫水高等学校	茨城県取手市紫水一丁目 660	
12	高等学校	茨城県立取手第一高等学校	茨城県取手市台宿 2 丁目 4 番 1 号	
13	高等学校	茨城県立取手第二高等学校	茨城県取手市東 2 丁目 5-1	

資料4-2:

実習受け入れ承諾書

本学では、当該年度の状況に応じて、中学校・高等学校と協議を行い、教育実習生の受け入れの承諾を得ている。

承諾後は、以下の承諾書をもって、受け入れ先との連携をとっている。

平成 年 月 日

流通経済大学
学長 野尻俊明様

学校名

学校長名

公印

「教育実習」受入れについて（回答）

標記について、下記のとおり教育実習生の受入れを承諾いたします。

記

1.

教育実習生氏名	実習教科

2. 教育実習期間（予定）

平成 年 月 日 ~ 月 日（ 週間）

3. 備考（実習生に対する伝達事項等をご記入ください）

*教育実習費(委託金)について

- 貴校では、教育実習費を
1. 受け取っている
- ア. 金額に取り決めがある (円)
- イ. 金額に取り決めはない
2. 受け取っていない

該当する番号・記号を○で囲み、また、数字をご記入ください

資料 5 :

実習（学外実習）施設一覧

	実習科目名	実習施設名	所在地	受け入れ 可能人数
1	海浜実習	国立沖縄青少年交流の家	沖縄県島尻郡渡嘉敷村字渡嘉敷 2760	150 名
2	プレビジネス プログラムⅠ・Ⅱ	NEX-TEC 芝浦（日本通運グループ人材開発センター）	東京都港区海岸 3 丁目 11 番 15 号	100 名
3	学校教育現場 実習	龍ヶ崎市立城南中学校 龍ヶ崎市立城西中学校 龍ヶ崎市立中根台中学校 龍ヶ崎市立城ノ内中学校 龍ヶ崎市立愛宕中学校 龍ヶ崎市立龍ヶ崎小学校 龍ヶ崎市立八原小学校 龍ヶ崎市立馴馬台小学校 龍ヶ崎市立城ノ内小学校 龍ヶ崎市立久保台小学校 龍ヶ崎市立龍ヶ崎西小学校 龍ヶ崎市立大宮小学校 龍ヶ崎市立馴柴小学校 龍ヶ崎市立川原代小学校 龍ヶ崎市立松葉小学校 龍ヶ崎市立長山小学校	茨城県龍ヶ崎市砂町 1736 茨城県龍ヶ崎市川原代町 710 茨城県龍ヶ崎市中根台 1 丁目 12 茨城県龍ヶ崎市城ノ内 5 丁目 3 茨城県龍ヶ崎市根町 3777 茨城県龍ヶ崎市田町 3316 茨城県龍ヶ崎市藤ヶ丘 1 丁目 22-4 茨城県龍ヶ崎市平台 4 丁目 23-1 茨城県龍ヶ崎市城ノ内 5 丁目 27 茨城県龍ヶ崎市久保台 2 丁目 3 茨城県龍ヶ崎市水門 8810 茨城県大徳町 4945 茨城県若柴町 3135 茨城県川原代町 3518 茨城県松葉 2 丁目 9 茨城県長山 5 丁目 7-1	当該年度の 状況により 適宜協議し て決定する

資料6：実習（教育実習・学外実習）受入承諾書

- ・ 龍ヶ崎市教育委員会 (2部)
- ・ 流通経済大学柏高等学校 (1部)
- ・ 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 (1部)
- ・ 茨城県立竜ヶ崎第二高等学校 (1部)
- ・ 茨城県立藤代高等学校 (1部)
- ・ 茨城県立藤代紫水高等学校 (1部)
- ・ 茨城県立取手第一高等学校 (1部)
- ・ 茨城県立取手第二高等学校 (1部)
- ・ 国立沖縄青少年交流の家 (1部)
- ・ 日本通運株式会社 (1部)